

徳川幕府刑事圖譜

全

16

183

030763-000-4

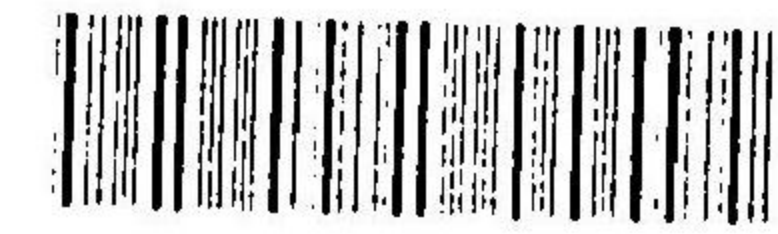
16-183

徳川幕府刑事図譜

藤田 新太郎 / 編

M26

BBB-0290



PREFACE.

Since a revolution of the first year of Meidi (1863) Japan had changed all the conditions of state, and is now at the wonderful Progress of civilization, so that it is administered by the constitutional government. Long before the revolution Japan was governed by a Despotism of shoguns or Taikuns. The punishments of this time were very cruel, so as indicated by this picturebook. No longer Japanese almost memory these cruelties, and therefore this has now become one of Japanese history. The book is divided into three parts, each containing a brief explanation: 1. Committing the crimes, 2. old Punishments by shoguns, which are the principal subject of this work, 3. Justices of our time: On comparing these facts you will understand how Japan is presently changing and civilizing its state.

June 10, the 26 year of Meidi(1893)

Author.

德川幕府刑事圖譜序

刑期于無刑，我皇祖家法也。而刑律之源，遠屬上古。伊弉諾尊斬軻遇突知進雄尊，斬八岐蛇，斬之始也。伊弉諾尊曰：我日縊殺千頭，縊之始也。放盤船棄蛭兒，又逐進雄尊於根國，流也。火酢芹命得罪為狗人，徒也。月夜見尊擊殺保食神，杖也。伊弉諾尊，又折桃枝投於雷，或云其意近於笞。於是五刑既備。及中古，概因唐制。大寶中，大備律令，蓋當時人情，益使之要其備者歟。自嵯峨帝後，廢死刑者，二十一代矣。其治可想也。及源氏為政，用笞杖徒三刑，而其餘皆廢焉。亂國以之治民，亦可想也。至北條氏末，加流死，其間有暴濫甚者，而古來刑之最慘酷者，莫若豐臣氏。氏專以軍法刑人，自大逆無道，至銖兩之罪，皆處斬。謂之一文斬，有梟首、鋸首、凌遲、磔、炮烙、鼎鑊、辜、截及解、解等刑，凌遲謂先斬其支體，次斷其吭，緒族謂夷其一族也。至德川氏，用心刑獄，頗有所釐正。而今此圖譜所畫，至我明治，始廢之者也。嗚呼！以冤罪罹此刑者，幾萬，誰得復不悚然哉！但常事之犯，自古有律，而犯國事者，不然。曰：汝布衣，敢誹上，無禮莫甚焉，則其罪也重矣。曰：汝下民，不禁愛國慷慨之心，誤而犯上，事雖科罪，



其志可感也、則其罪也輕矣、古來君相明暗之分、於是乎定矣、德川氏末路、志士明賢、亦多罹此慘刑、雖不親効於生前、今也、可以嘆歎、抑刑期于無刑、而上古既不可期也、文明今日之世、律令屬科、人亦無屈其冤、而遂不可期於無刑、是法之大本、所以傾於究其精歟、嗚呼、我邦今日之法、亦得非基於罹德川氏慘刑者哉、余贊此圖譜編纂、專添力成之、作序冠之。

明治廿六年第三月

江馬 春熙 識

德川幕府刑事圖譜序

今日の刑事を以て往時幕府の時に比すれば、實に霄壤も啻ならざるあり、予の家累代、德川幕府に仕へて、舊江戸傳馬町牢獄の事務を總裁と當時累代の法規に隨て、其獄則を行ひしが、今にして之を追想すれば、轉た其感に堪へざる者あり、嗚呼、時勢の變遷、夫れ此の如く、刑事の改良亦爰に至り、歟、其囚徒の幸不幸は果して何如ぞや、聊の一語を綴りて、序と爲し、以て編者に贈る。

明治廿五年第十二月

舊江戸囚獄奉行第九世

石出帶刀直胤 識

徳川幕府刑事圖譜序

我家累世幕府に奉仕し刑罰の一なる斬罪の事を司る當時實に我輩の祖先が一闪電光の下に身首處を異にせしもの殆んど萬以上を以て之を數ふべし噫我家固より罪人と私怨あるに非ず豈に求めて斯の如きの不忍なる行を爲さんや之を爲す者は唯其職の己むを得ざるにある而已故を以てか曾て刑死者の我家に怨恨を愬へし者なし然れども蟻蛄蜂蟻の如き猶且つ生を欲す我輩職として斬首を爲せしとは雖ども心中顧みて憐愍の情なきを得ん哉依て一方に仙薬を製し罪なくして妖死する者を救済し來きり予に至りて猶然り然るに此頃徳川幕府刑事圖譜の著あり編者人を介して序を予に求めらる取て之を見れば當時の状殆ど親睹する者の如し嗚呼我輩祖先をして此聖世に遭遇し此圖譜を過去の形見として見るを得せしめば必ず亦感泣止む能わざらん歎

明治廿五年第十二月

第九世

山田淺右衛門識

徳川幕府刑事圖譜序

拙僧天保年間より府下千住小塚原回向院寮の住職となり徳川幕府の刑場を管理せしより今に至りて殆んど五十有餘年に及べり此長歲月の間牢獄中の病死刑死に依りて爰に埋葬し來りし者の一として拙僧の管理に關らざりし者亦し其數ハ明治維新の時に至るまで徳川氏專制の時に於て毎年千人以上二千人以下にして特に弘化年間如き一時二千人以上に達せしことあり今之を通算すれば拙僧管理の下に其屍体を埋葬せし者ハ少くも五六萬人に下らざるへし又維新前三十有餘年の間拙僧の親しく臨みて磔刑火罪獄門斬罪等の慘刑に處せられし者を目撃せしことハ其數實に枚舉に遑わらず斯く多くの死亡者中眞に大罪を犯し天地に容れられざる大惡人必ず多數なるべしと雖ども時にハ犯罪死に至るまで甚しからず或ハ無辜冤罪にして刑罰に罹りし者も亦決して少なからずと彼の幕府の末年に牢死せしとて此原中に埋められし者等にハ實に聞くに忍びざる憐むべき者甚だ多かりしあり且安政以降王室の衰微を歎し慷慨忠烈身を以て國家の犠牲に供し空しく此刑場に一片の靈と消へて其骨を埋めたるの諸士乃ち速田東藏信田仁十郎茅根伊豫之助鶴岡吉右衛門同幸吉梅田源二郎橋本左内飯泉喜内頼三樹三郎吉田寅次郎僧月照の弟僧信海村田雷助小林民部權大輔大貫多助日下部祐之助宮田瀬兵衛佐野竹之介有村治左衛門山口辰之助鯉淵要人廣岡子之次郎稻田重藏齋藤監物黒澤忠三郎大關和七郎蓮田市五郎森山繁之助杉山彌一郎金子孫二郎岡部三十郎森五六郎關鐵之助廣木松之助住谷佛之助神鉞三郎石井金四郎千葉昇平中嶋久藏伊藤藤軍兵衛佐久良靜雲井龍雄關氏の妾伊能等其他枚舉に遑あしと雖ども是れ皆拙僧の曾て之を管理し爰に其屍体を葬りし所あり特に

此志士中橋本左内頼三樹三郎吉田松蔭の三氏の如き其屍体を土中に埋めしや當時の志士來て墓を拙僧に建設せんことを謀りしより拙僧の奮て直に之を許せしに此事忽ち幕府の忌諱に觸れ當時の町奉行黒川備中守の拙僧を白州に呼出し罪人の墓を建つるの天下法度の禁する所あり咄汝恣に之を許す其罪免れ難しとて拙僧に五十日の閉門を命じ幕吏來て其墓を毀ちしことあり今より當時を追懐すれば實に尙昨日の如き感を生し轉た愴然に堪へざる所あり抑々當時此徳川氏の刑場たりし小塚原刑場の近傍の唯拙僧の現住する回向院の寮ありしのみにして遠く一の人家もなく草木森々と繁茂して悲愴慘怛の状況に迫り特に夜間の一の行人もなく唯悲雲慘月の此原中を照し來て草虫の或の血露に泣き野犬の或の遠く吠へて爰に其肉を求め凄風蕭雨の此院を敲き來て暗に幽鬼の怨恨を訴へ空しく中天に哀號するが如き聲の外の一も拙僧の耳邊に聞ゆる者なかりしが今や此小塚原の全く舊態を變し櫻花の候に其花爛熳として春に笑ひ人家の其櫓を列ねて漸く市街を爲し往來の行人をして殆んど徳川氏二百餘年間の舊刑場たるを省みずして此地を過ぐる者多きに至らしめたり是れ時勢の變遷と云へ亦維新明治の徳澤に出づる所あり拙僧今此圖譜を見るに實に能く其慘刑の實況を寫し出だせし者にして覺へずも無量追懐の感を發し殆んど胸間に溢れんとする者あり嗚呼維新後今に至りて僅々尙二十五年を経しのみ其實際を目撃は果して此圖譜に歸せし歟果して此圖譜に歸せし歟

明治廿六年第一月於

東京府下千住小塚原回向院寮

八十翁 院主 川口 嚴 孝 識

凡例

一本帖の徳川幕府に係わる歴史中の一番報として之を後世に遺さんが爲めに編輯したる者なり但し徳川氏の制度の所謂民をして依らしむべし之を知らしむべからずとの趣意に基きて専ら秘密を主とし特に其刑事の如きの秘密中の最も秘密を極め唯其役を勤むる者の外の内容易に知る能はざりし者あれば此書報の如きの當時其役にありし某氏の秘藏せし刑事秘録等に依り又の曾て實地に見聞せし者等を取捨し万誤りなきを期するとの雖も或の誤謬脱漏等の恐れあしとも云ひ難し此の如きの他日亦更に訂正する所あるべし

一本帖を分て前編本編及び附編の三段に區別す編者の始め此本編のみを輯めしに或る人編者に注意し此本編のみを以て徳川氏當時の慘刑を見るに足れりとするも看官特に婦女子諸君の通覽に堪へざる所あるべし凡そ善を好み惡を憎み其惡の惡報を受くるを見て快と爲すの人間普通の情なり故に人の惡事乃ち其罪科を犯かすの圖書數枚を前段に置き聊か本編の始めに於ける捕縛の仕方を畫く所に照應するの工夫と爲さの幾分か之を見る人をして其快を添へ且つ其慘刑の有様を見るに就ても其心を慰する所あるべしと云へり編者も大に此説を可とし爰に前編を置くことゝあしたり但し此前編の末に於て一の貧士が坐して慷慨憂憤す

るの狀一枚を加へしの特に安政以來勤王愛國の志士にして齊しく此慘刑に罹りし者多きを以て聊か其冤魂を弔するの意に出して所あり幸に他の前編の繪圖に同視せざらんとを望む

一本帖の拷問死刑等の圖に於て男女を併せ畫さし徳川幕府の罪人を糺し又之を死刑に處するに於て男女とも皆斯くせられたることを示す為めあり

一本帖の附編と爲して明治今日の刑事裁判に係わる一二の圖畫を加へし今より二十六年前まで實行し來りし徳川氏の刑事に比較して聊か我聖代の鴻徳に浴する一端を知らしめんが爲めなり覽者爰に至て亦思ひ半に過くる者あるべし

明治廿六年三月

編者 識

圖 北 乃 備 在 客 妓 毒



A singing girl's theft.

毒婦の入りたるが図



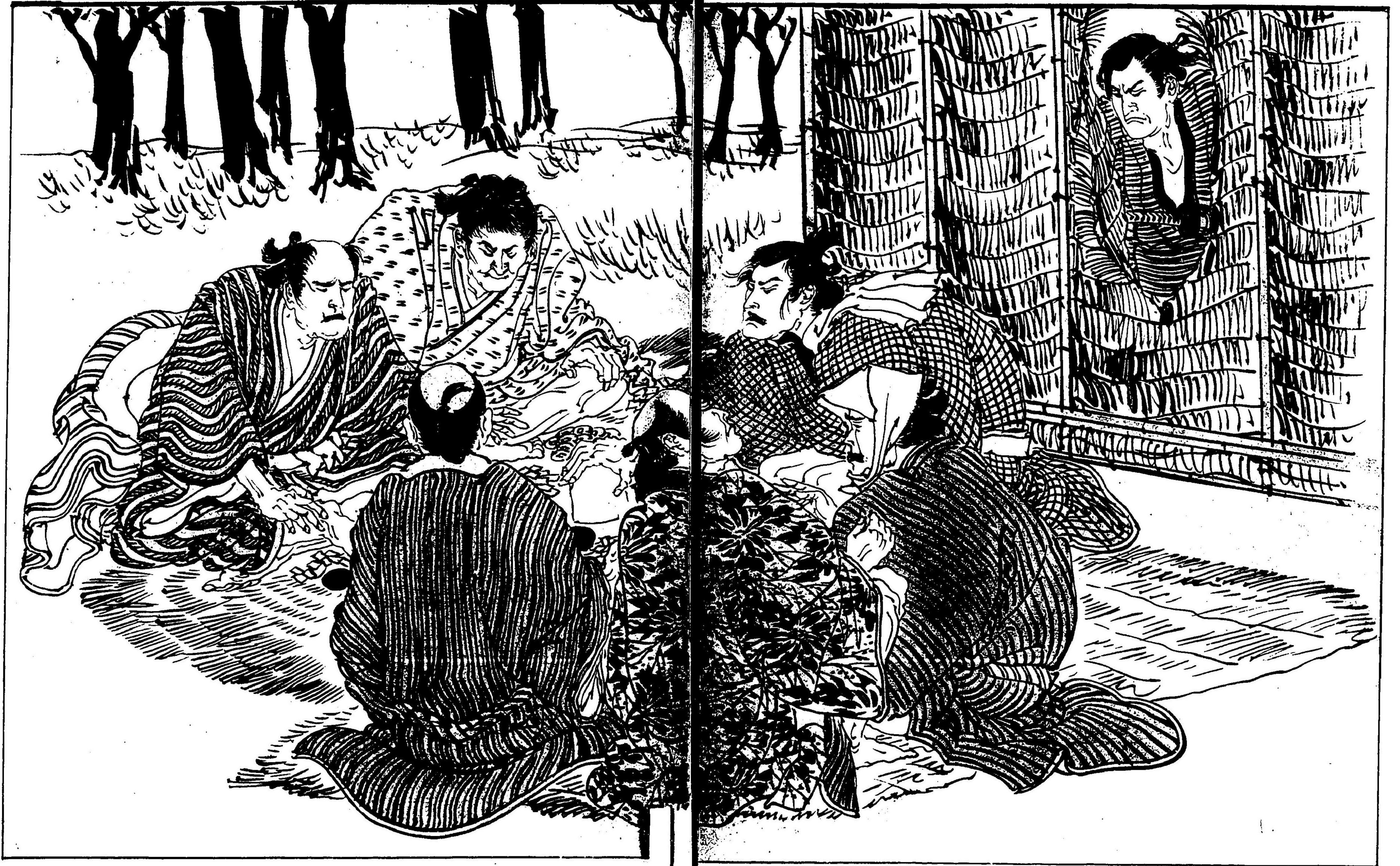
A knavishness of wicked concubine at home.

強盜分配北圖



Division amongst a robber's party

賭博北圖



Yamaguchi

圖於此 買商 處



*Commerce stall in the market.
This was regarded as a chance to cause a distress of people.*

毒婦が謀殺を比ぶる図



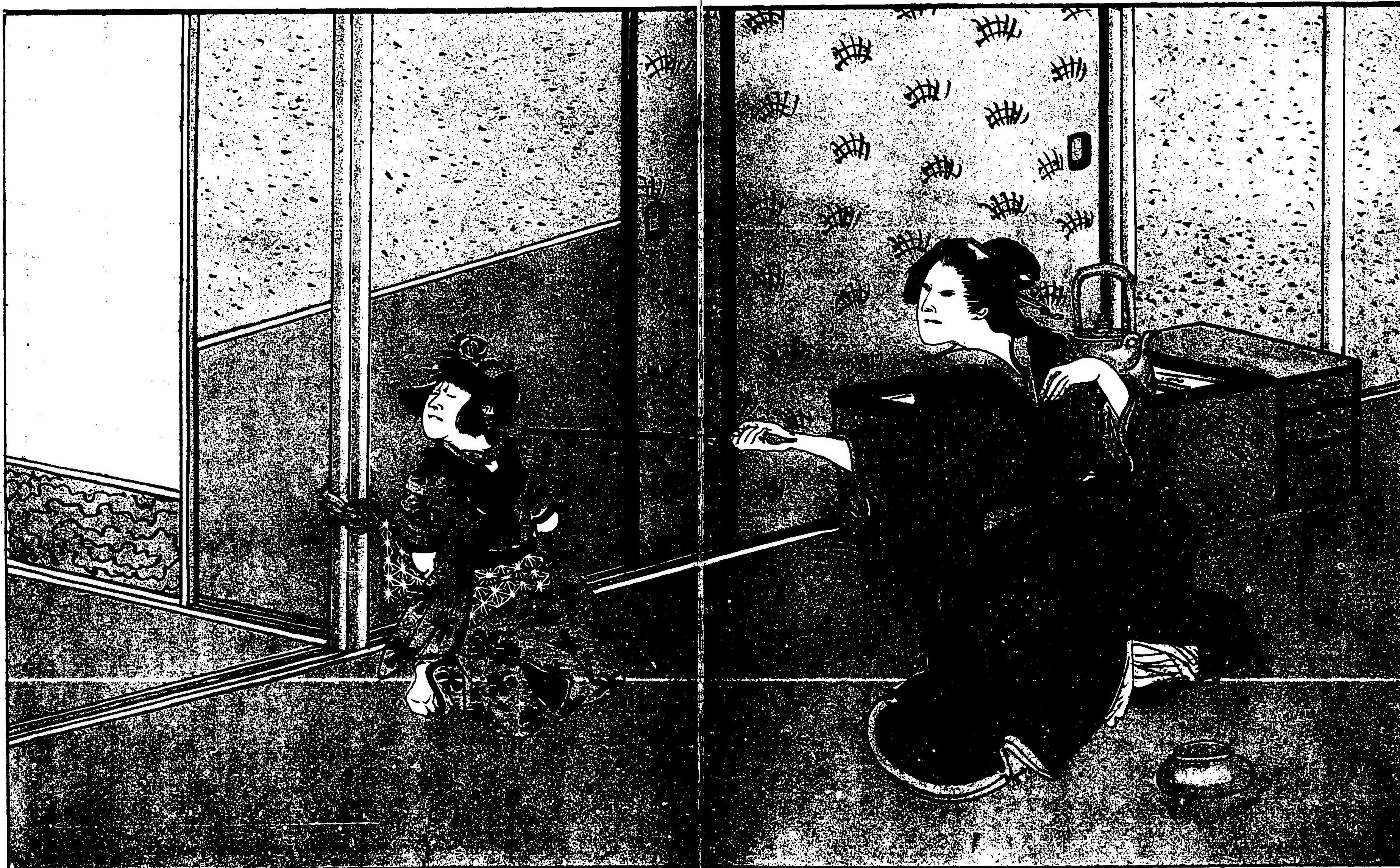
Killing her husband with poison

奧殿陰謀此圖



A secret plan in the back room of a Daimyo or lord's residence.

圖 此乃古責を子繼婦姦



Hectoring her step child.

強盜遊真此圖



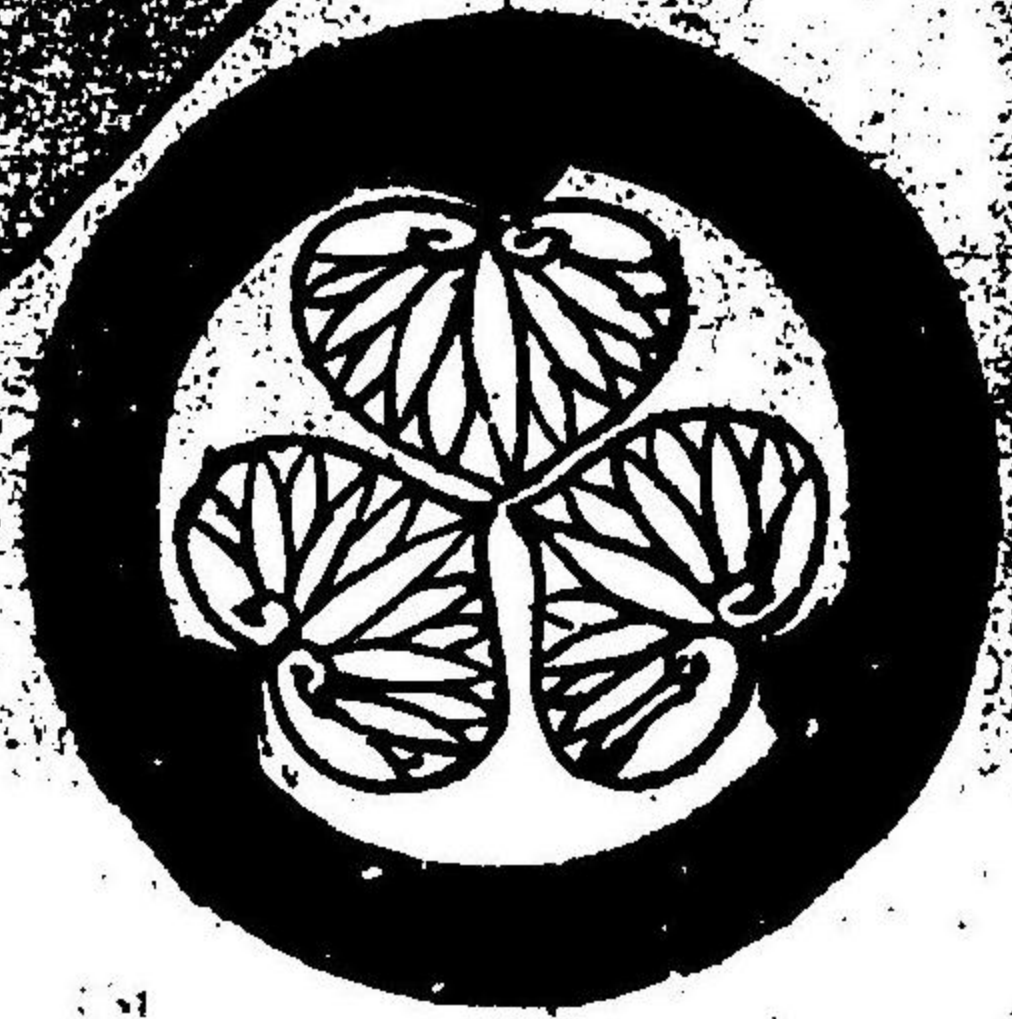
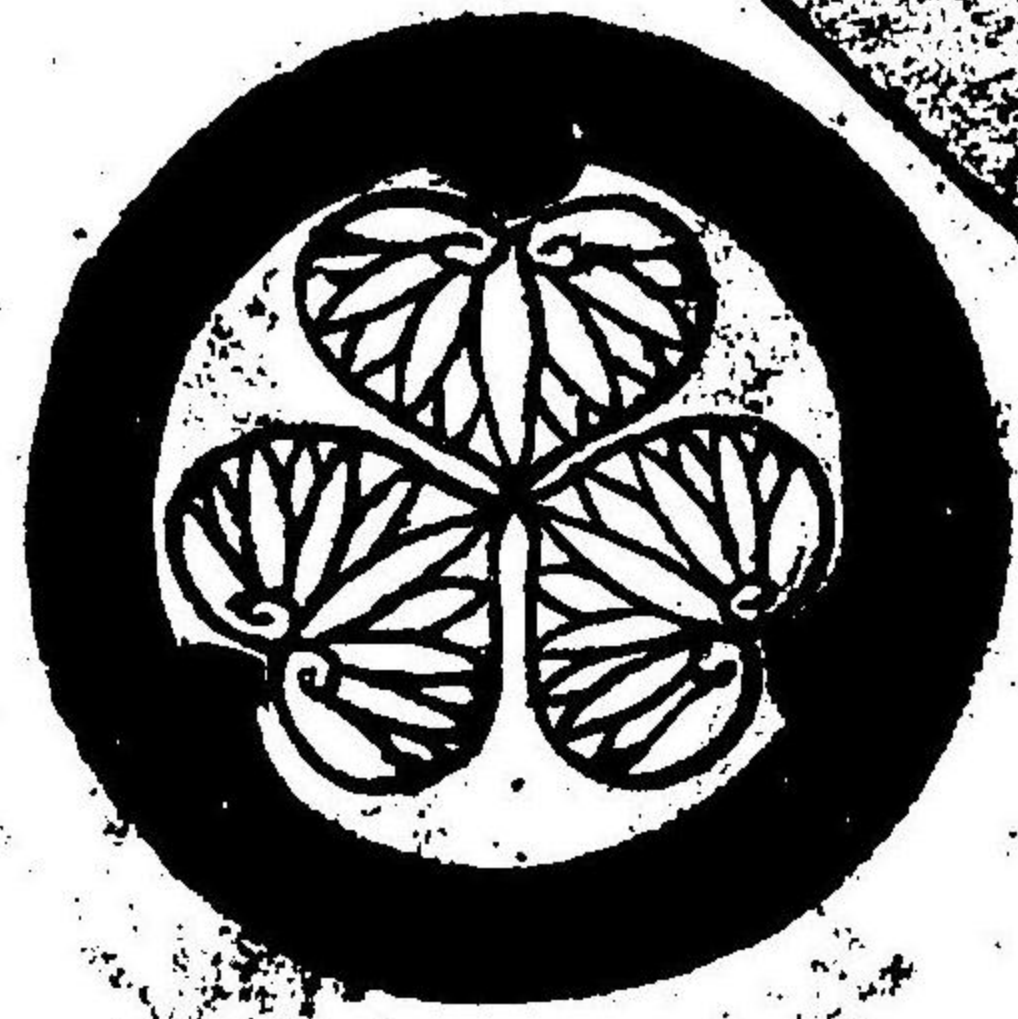
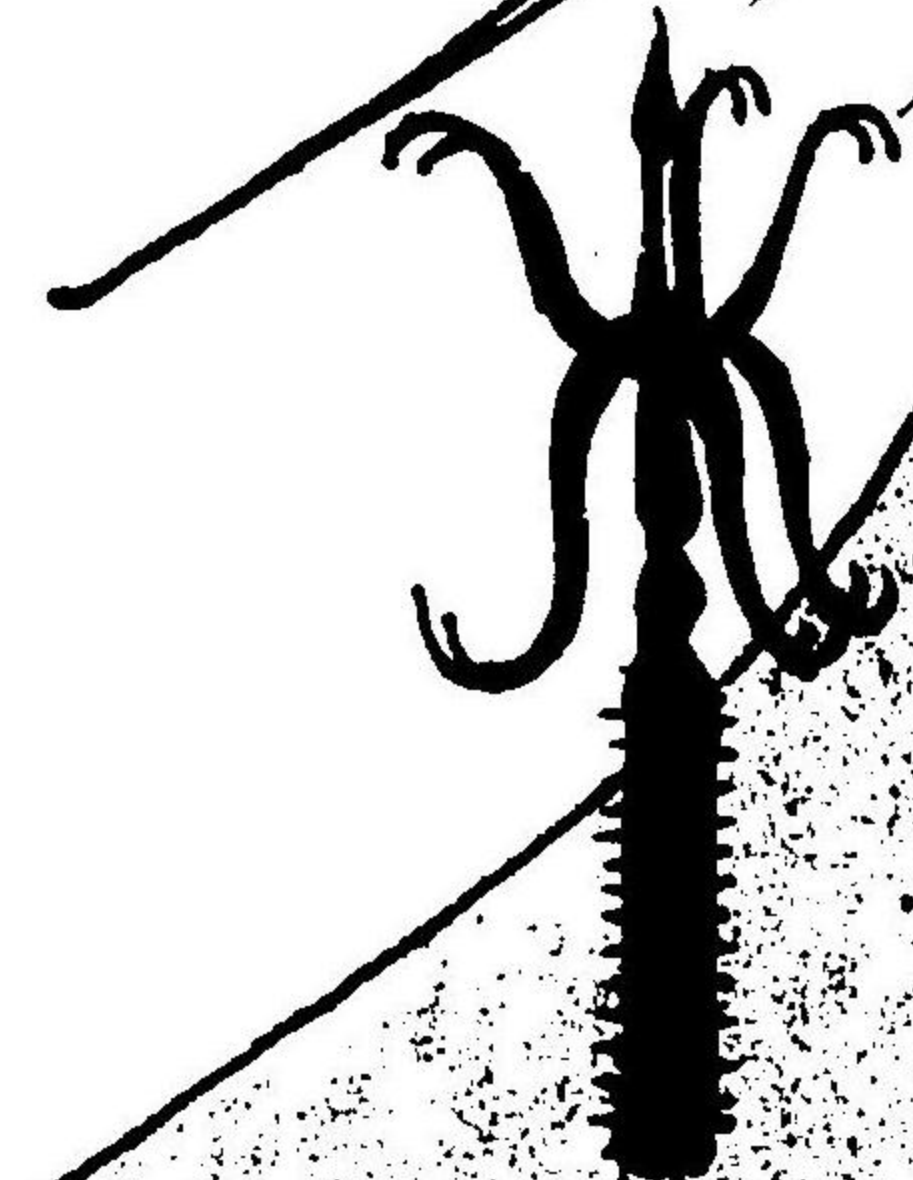
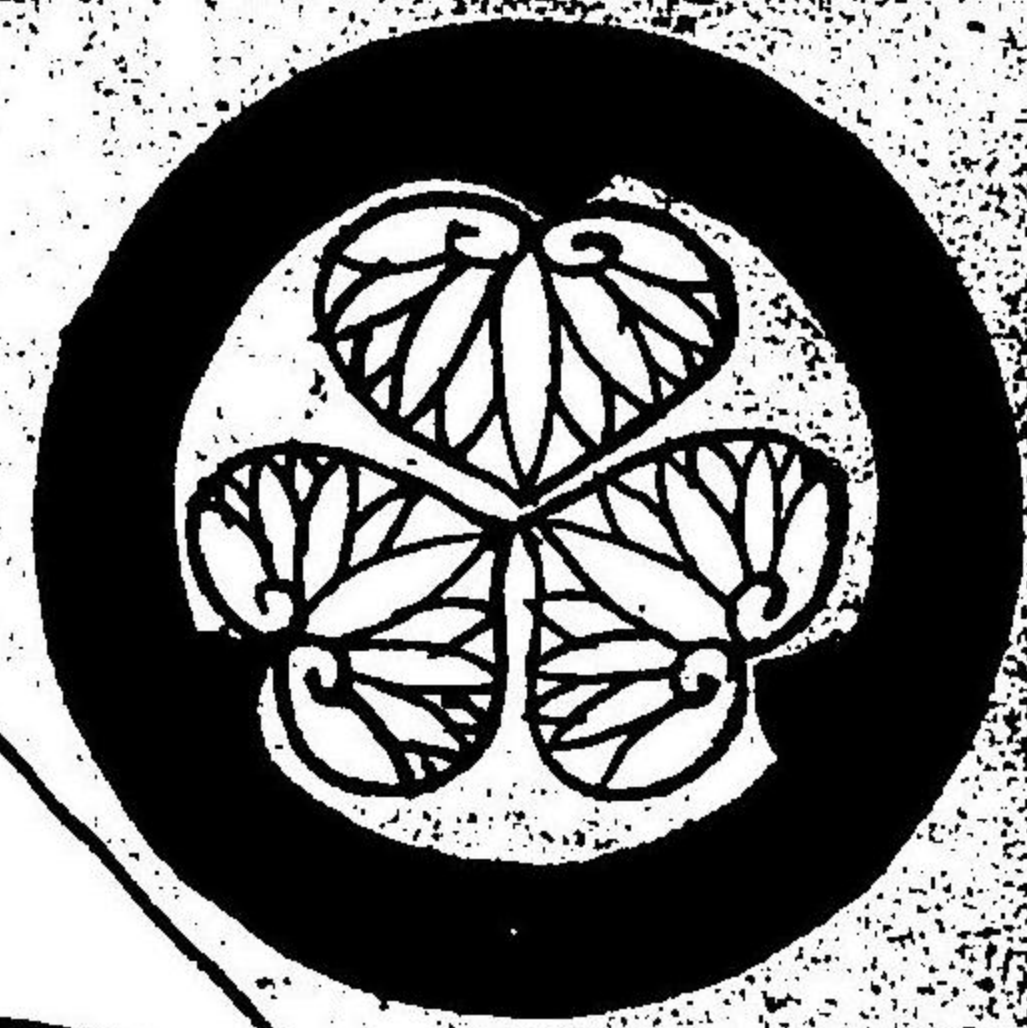
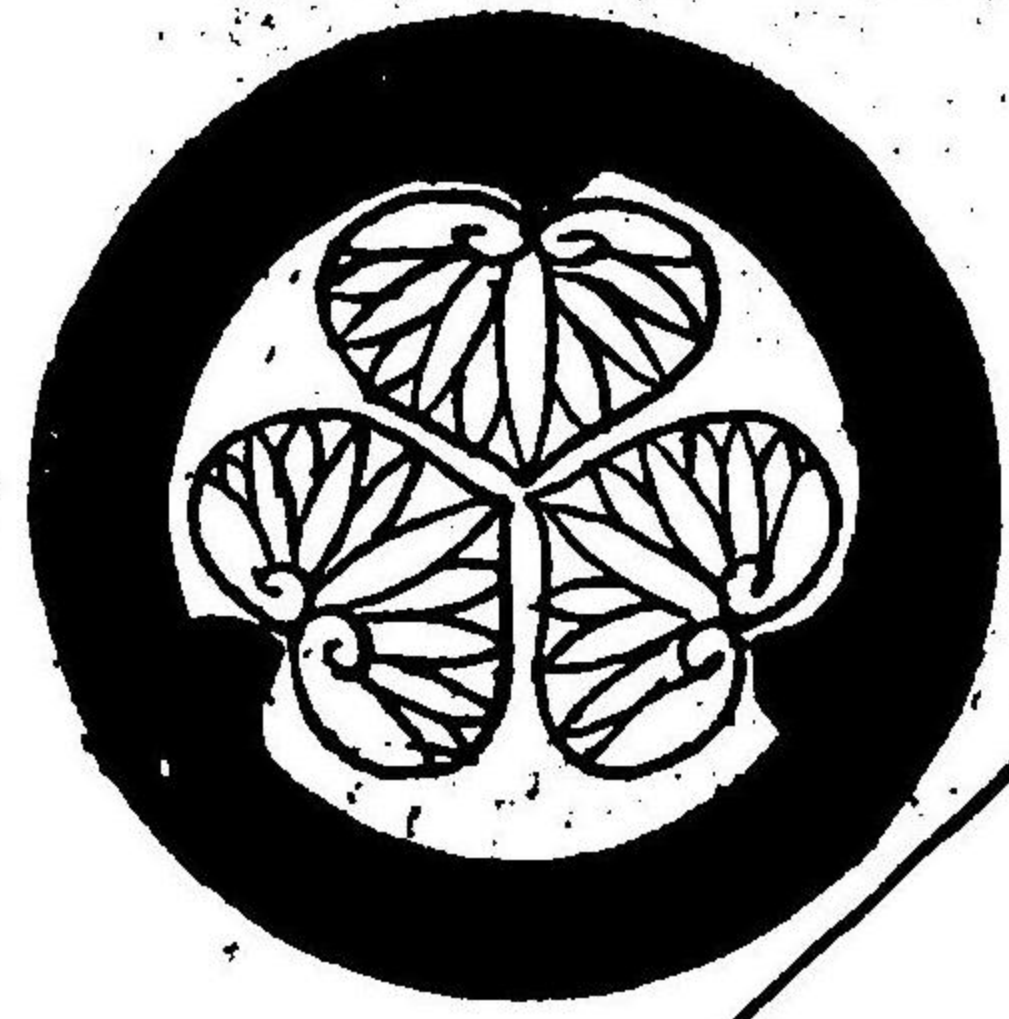
Amusement of bandit.

安政御勤瑤志士之憤之圖



Patriotic anxiety of a poor royalist. Before the Japanese revolution in 1867 many patriotic royalists had risen in several provinces of the country against the feudal system of shoguns, and having regard as rebels the capital punishment was often inflicted on them.

德川幕府刑事圖譜本編



舊江戸千住小塚原刑場の圖

千住小塚原徳川氏開府の始り重罪者の刑場とて淡草磯地湯と称せし所なり明暦三年正月江戸大火の節十万余人餘の焼死人も本所埋め置院を創立せし後牢獄中病死刑死の者皆其屍を同寺の境内に埋葬せし其後人家繁盛し至死刑死者は此小塚原に埋葬せしなり此際一字と建ても今の田向院なり又其地藏尊は此特恩寺有志の人より同徒七堂菩提の殿めを建立せし者と云ふ未二百二十餘年間総と埋葬せし者毎半千人以上二十人以上より少くも数千人の屍を埋め置たるなり小塚原刑場の總地幅六十坪餘なり明治二十年官道其表通三百餘坪を拂下げ現境七百坪となり地積の高き蓮華より上二間蓮華の表面横九尺



execution-ground of Kotenshō-hara at London.

捕縛比圖



Arresting a criminal.

捕縛之圖

(甲) 輪を首より引掛引倒して之を捕縛する様なり
 (乙) 罪人を追ふて逃げ難きとき棒を両足の間に投込み倒して之を捕縛する様なり
 (丙) 捕縛の先きま鉤より先其鉤を罪人の衣服に打ち込み直し其繩を腕より喉部までかけ引倒して之を捕縛する様なり
 (丁) 場合によりハテ足蓋を以て繩を掛けて引倒すことあり



The modes of arresting the criminals.

捕縛比圖

罪人早繩を掛
 ける處に先
 づ我右の膝を
 敷いて罪人の
 の上腕を踏み
 身体を十分穿
 ち付けて右の手首
 と捻り上げ左足
 の膝頭を引付け
 繩の輪を之に掛
 けて直に其罪人
 の左方より喉部
 を引掛ける肩を
 廻り我右の手首
 罪人の左足の背
 を押して繩を掛
 け其末端を帯に結
 ぶ



Arresting the criminals.

捕縛此
 藩中重役の
 者又其殿の
 中寄寓の相
 して其家
 獲んとし又
 の陰謀を企
 謀及し
 先づ之を殿
 出して其事
 命味し其死
 脱もつた又
 証據十分し
 子ハ其襦を
 取り庭下し
 と捕縛もつ



Arresting the criminals.

捕縛比圖

罪人同時三人ありて其一人容易に縛るは他の一人を縛るより其一人を捕りて動かし置き一同に縛るなり



Arresting the criminals.

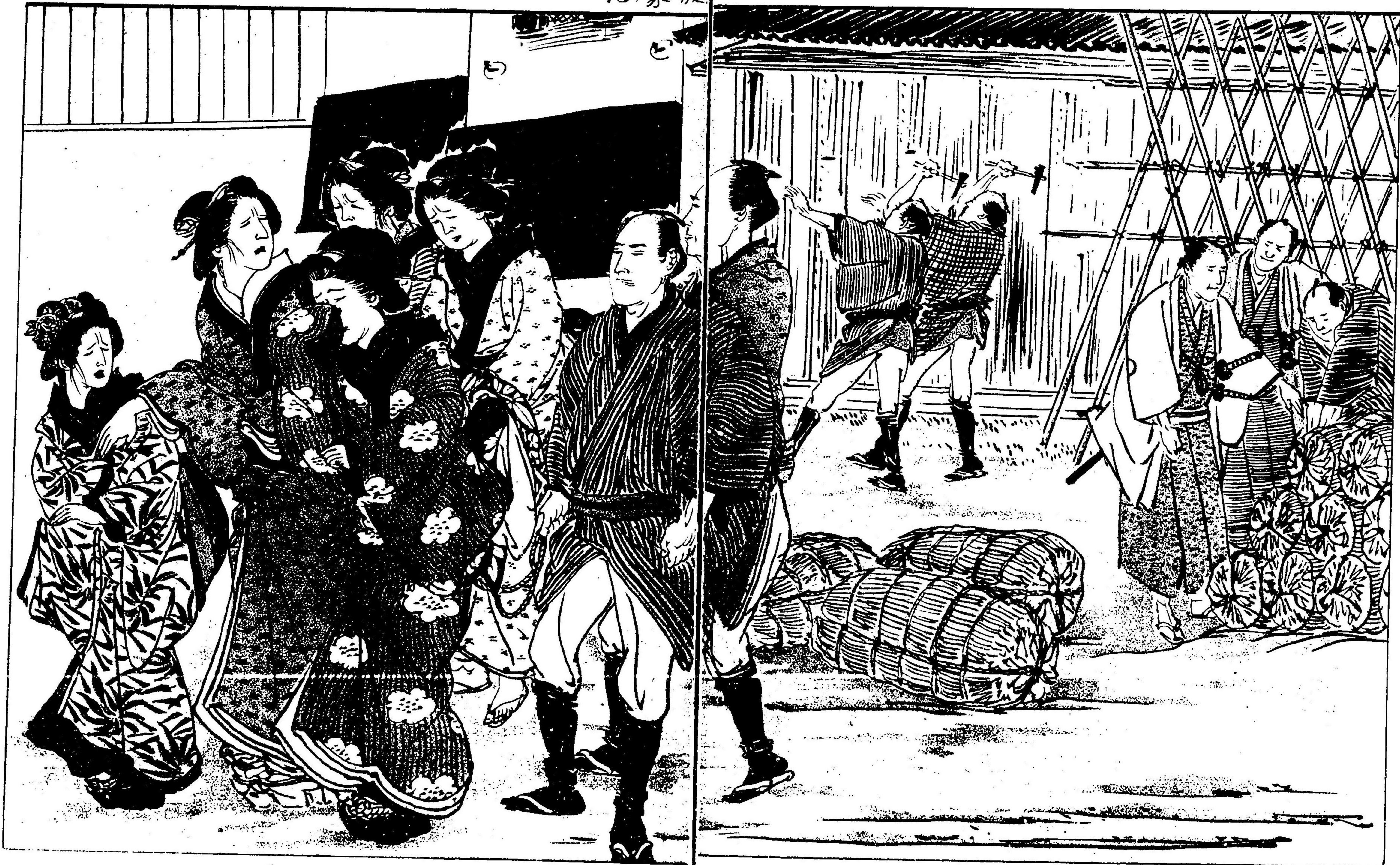
不義此娘親引子渡たれさる圖



The immoral daughter sends her parents on Morishige's secret relation with hand-car.

欠所 圖 欠所 家財

を没収し家財
を追放し其家
を閉ぢて断絶
せしむるを云



Confiscating the property of a person for crime committed.

圖北番身自内市戶江奮



A watch-house supported by the citizens of ward.

大坂屋敷置所の圖



At place of arresting the criminals in a great watch-house. Before the criminals should be send to gaol, they were arrested in this place a night or few days, in order to judge and decide upon their crime.

大番屋下調比圖



Temporary examination of the criminals in great watch-house.

舊江戸傳馬町牢獄前之景

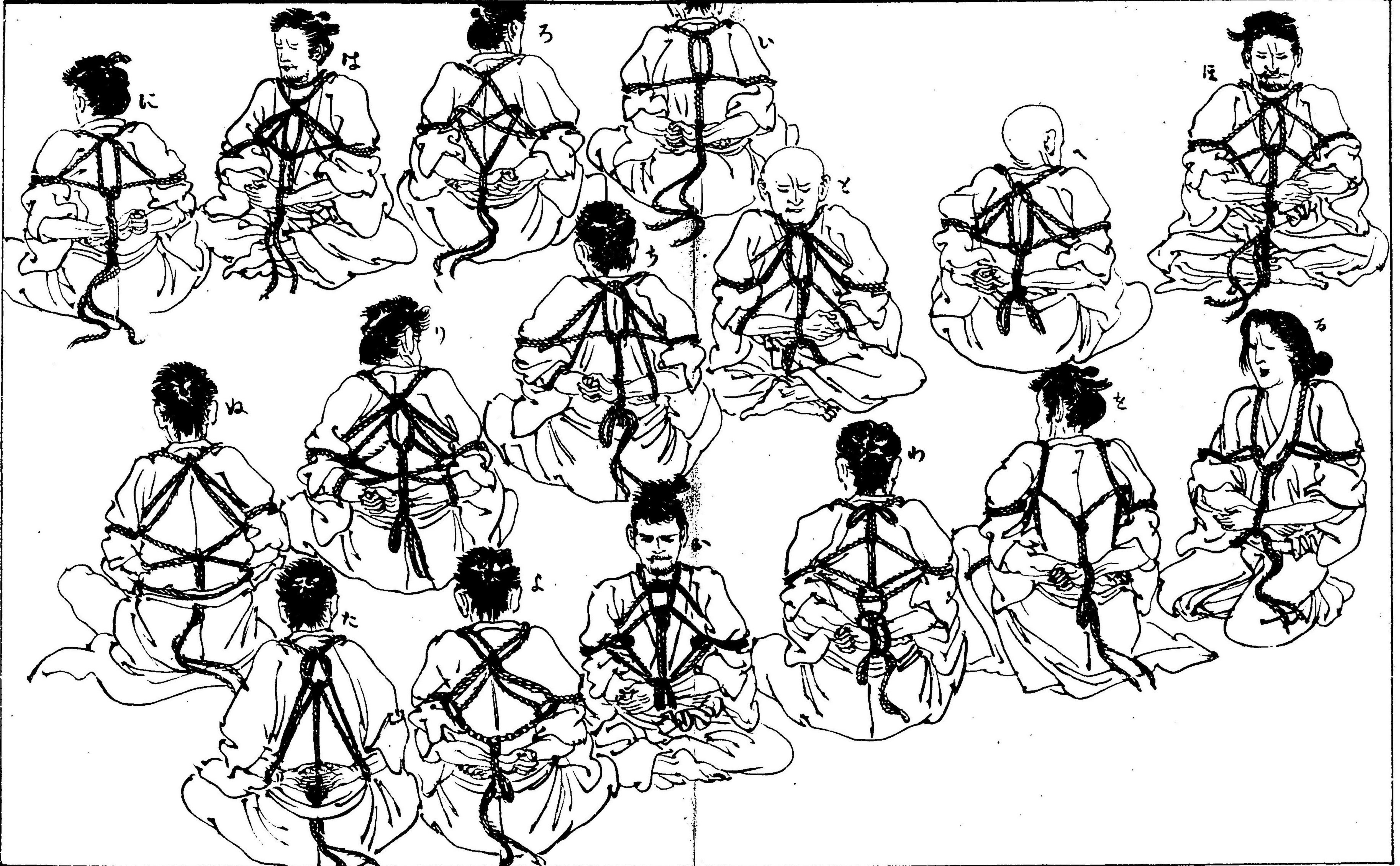
どうも、籠へ
 細乗物と云ふは
 罪人を他所へ江
 戸へ送ると云ふは
 江戸より他所へ送
 るとも、用ひ罪人
 手錠の上、柵を付
 して其内へ坐せし
 め、食時之郎よ其
 か、おん家より握飯
 を與へ、夜中、宿驛
 へ泊ると云ふ、其、
 宿屋の板戸、一柵
 置きて、敵重を警
 護し、幾百里の道
 中、雖も、雨便の
 外、晝夜、も、決
 して外へ出さず、
 士分、以上の者、ハ、尋
 常の、加身籠、を用
 ひ、細を被ふ



The outside view of the gate of gaol.

繩に掛ける
方の種類

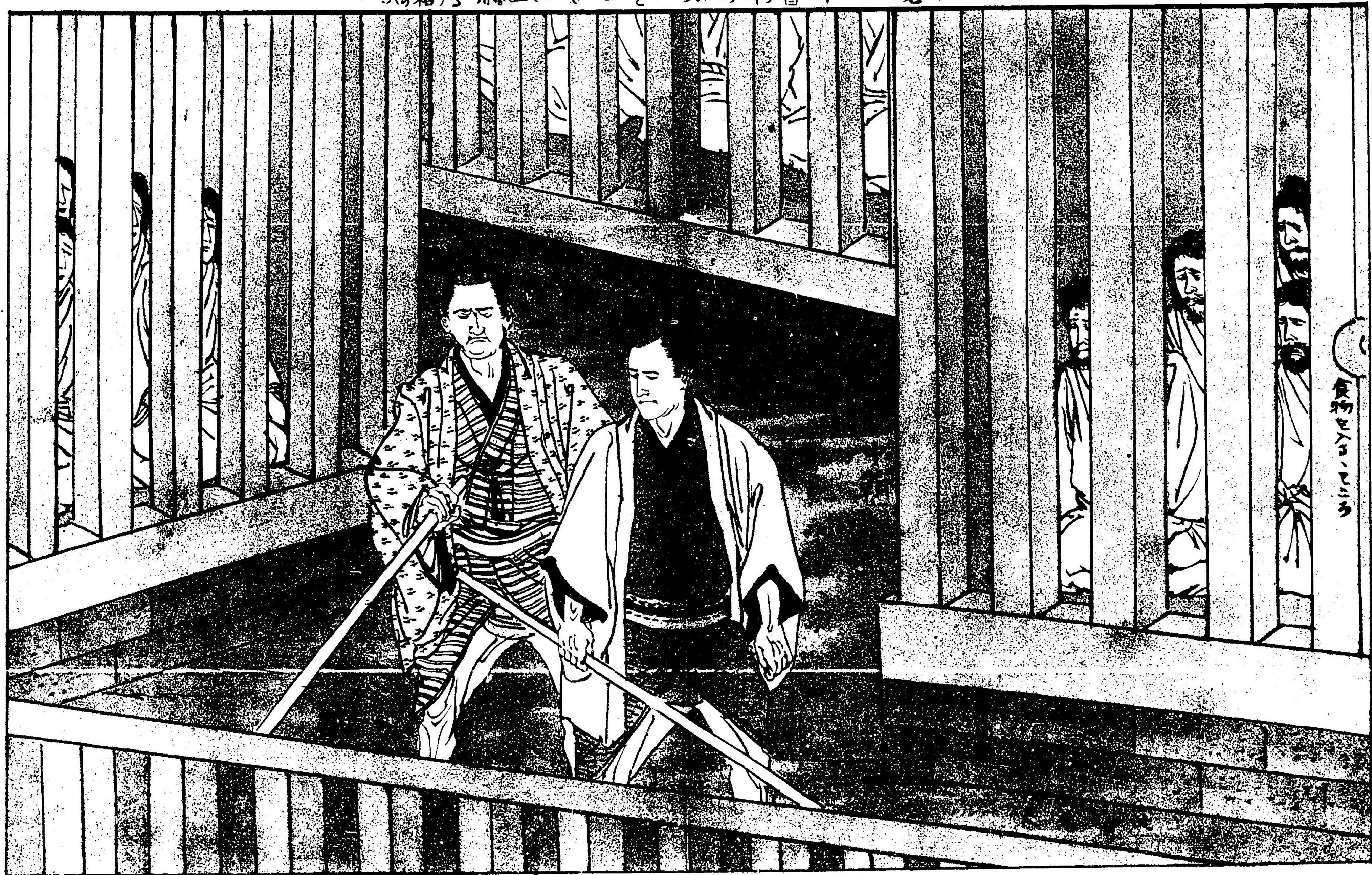
(一) 十文字繩と云ふ
 (二) 上繩と云ふ上の
 字にゆたきを以て字
 つく同く雑人掛
 ける繩なり
 (三) 事美繩と云ふ
 又常々雑人掛の
 に事美繩と云ふ
 雑人掛なり
 (四) 下廻繩と云ふ
 へ返し繩と云ふ往時
 出家掛し者なり
 (五) 鷹の羽返し繩
 と云ふ出家掛し繩
 なり
 (六) 注連繩と云ふ社
 人掛し繩なり
 (七) 袋掛繩と云ふ往
 時代に掛し者なり
 (八) 羽付繩と云ふ往
 時掛し者なり
 (九) 故小字と云ふ
 丸掛繩と云ふ貴
 賤の別なく婦人掛
 ける繩なり
 (十) 足廻繩と云ふ船中
 工用又剛力首工用
 なり
 (十一) 切繩と云ふ鞭罪
 の時工用なり
 (十二) 三重繩と云ふ
 往時士人掛たり
 (十三) 今繩と云ふ罪人の
 足放請渡すの時
 工用なり
 (十四) 留り繩と云ふ繩
 けし方なす者工用
 なり
 (十五) 決して尻そくも御
 手但し永く掛るこ
 とと釋を指の御
 手そくれなり



The several modes of binding

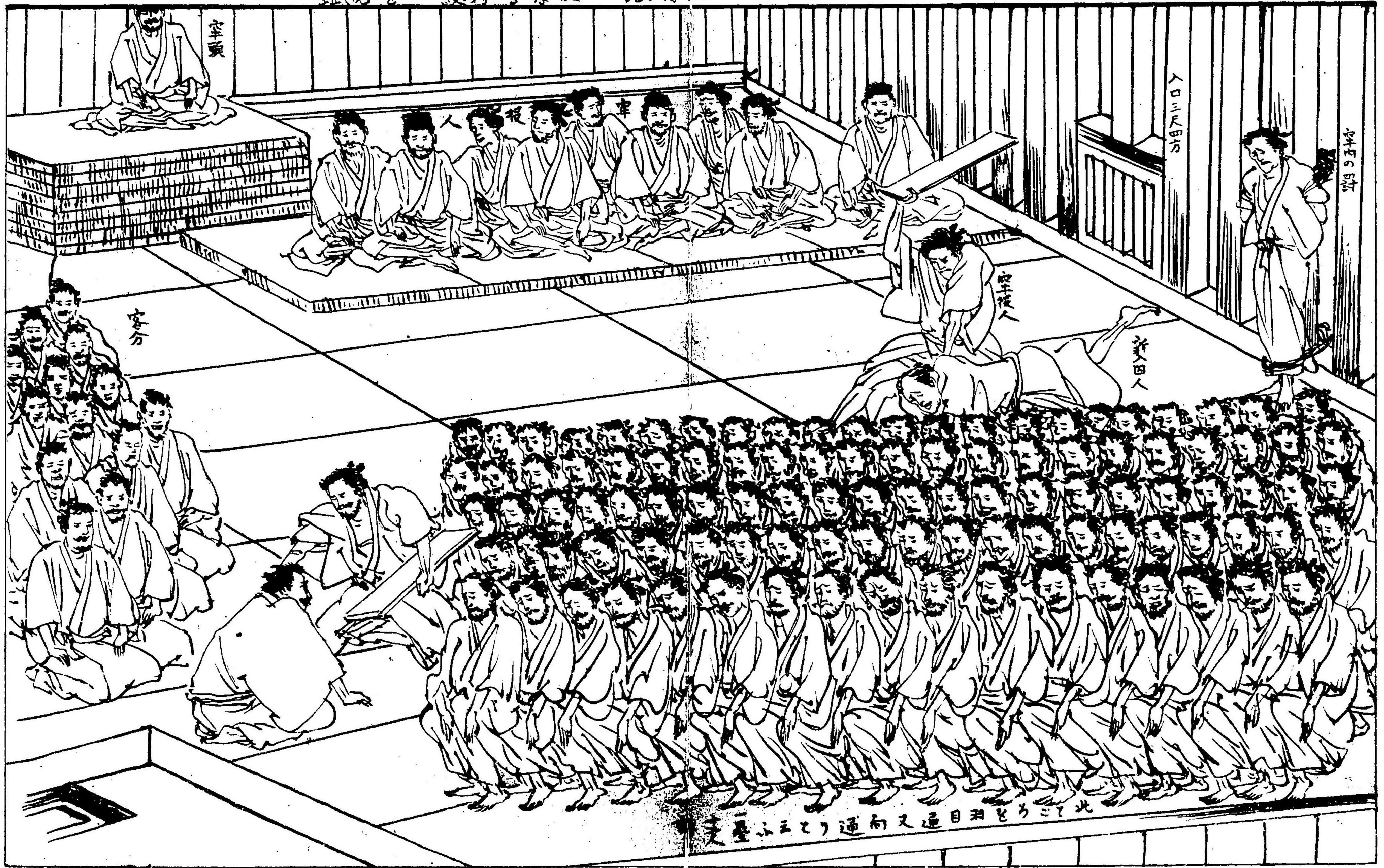
圖 牢獄の零

春江戸傳馬町の
 牢獄ハ揚屋百
 姓牢大牢千七
 子供牢等の別あり
 其數十三餘
 ありたり
 牢の格子を藁と
 云ふ外藁ハ杖を
 以て之を作し高サ
 二間程四寸角な
 り中藁ハ床の上
 高サ一間位赤
 松を以て之を作し
 三寸角なり其格
 子と椅子の向ハ共
 柱の向ニ同しく



The view of prison.

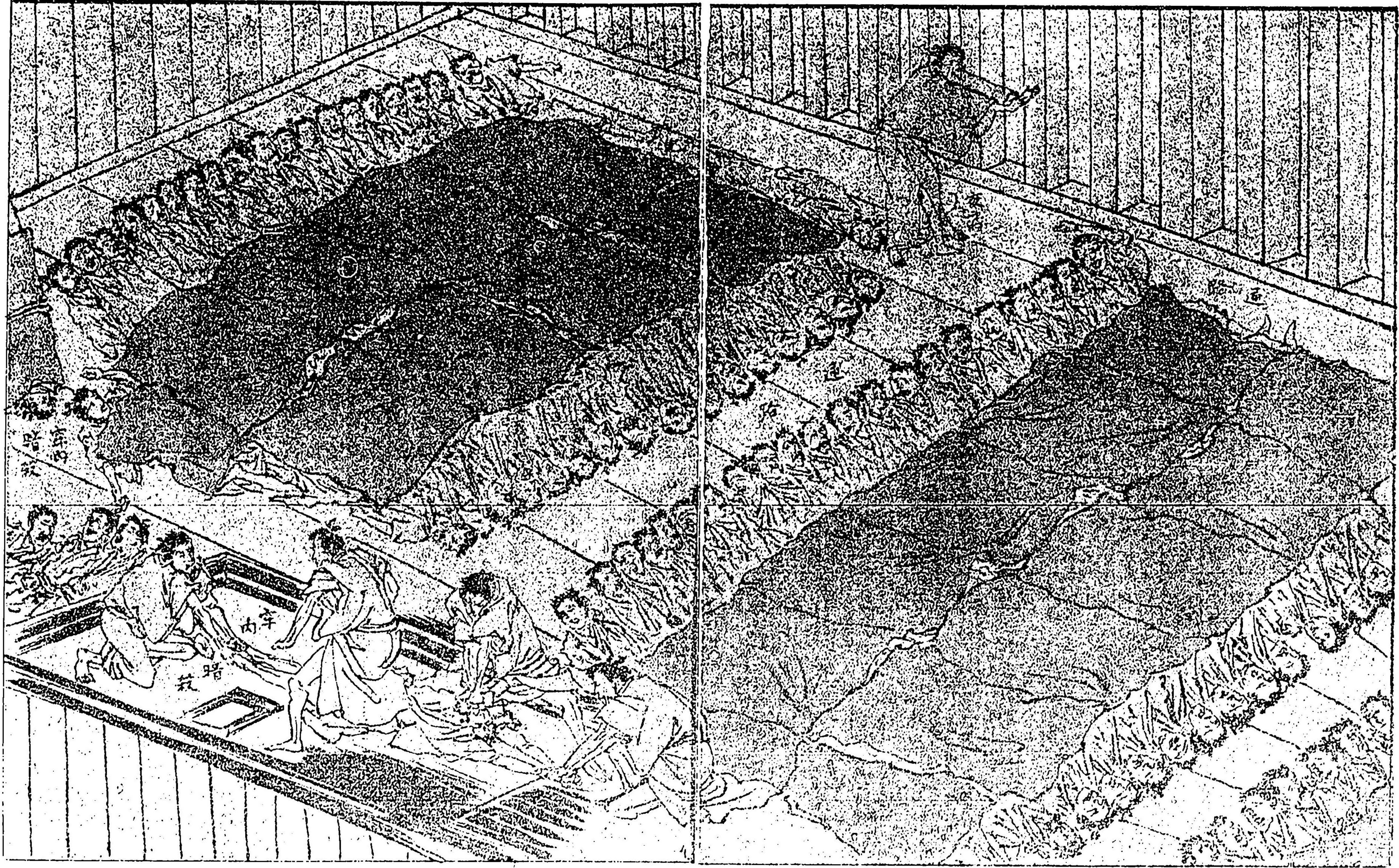
奮江戸傳
 馬印牢獄
 内畫此圖
 牢内四人役各
 谷主〇頭〇隅後
 〇隅の御隠馬〇
 上座の御隠馬〇假
 座の御隠馬〇穴の
 御隠馬〇三番後
 〇三番後〇四番後
 〇五番後〇諸の役
 〇教〇本助番〇下
 座の七三三三〇諸
 のて三三三〇名役
 〇分〇牢頭〇又〇後
 〇人〇寺〇兼〇て〇天〇己〇な
 り〇しか〇又〇ハ〇澤〇山〇な〇ま
 り〇金〇銀〇の〇土〇産〇を〇持
 ち〇来〇り〇し〇者〇ハ〇聊〇か〇緩
 く〇坐〇ま〇へ〇ん〇様〇別〇改
 の〇處〇置〇か〇れ〇る〇者〇を
 〇は〇ん〇其〇他〇牢〇内〇の〇規
 〇則〇に〇違〇ふ〇事〇は〇雖
 〇も〇罰〇せ〇る〇也



The interior view of prison.

舊江戸 傳馬町牢 獄夜中の 圖

牢内、夜中一豆の
燈火なく、其の暗
黒なる昔し、入
獄の者と暗さ
虚に入れらるゝと
云ふ、夜中、牢内
虚に起臥せざる
と得ざる由る
事、此の牢内、
氣を卧し他の囚人の
邪魔よりし、昔又
ハ四人仲間、恐ま
し、昔の者ハ夜中増
し、乘して之を扱せし
こと、死し、牢内、
く、落り、向、押伏せ、
み、手、又ハ、衣、
突、び、み、呼、息、ハ、
が、採、な、し、一、人、其、上
に、踏、かり、胸、
を、向、て、尻、餅、と、
り、夫、ハ、蒲、團、
夜、中、倒、し、
て、殺、も、こ、と、あり



Interior view of prison at night.

舊江戸傳
 馬町牢獄
 所へ呼出しの
 圖

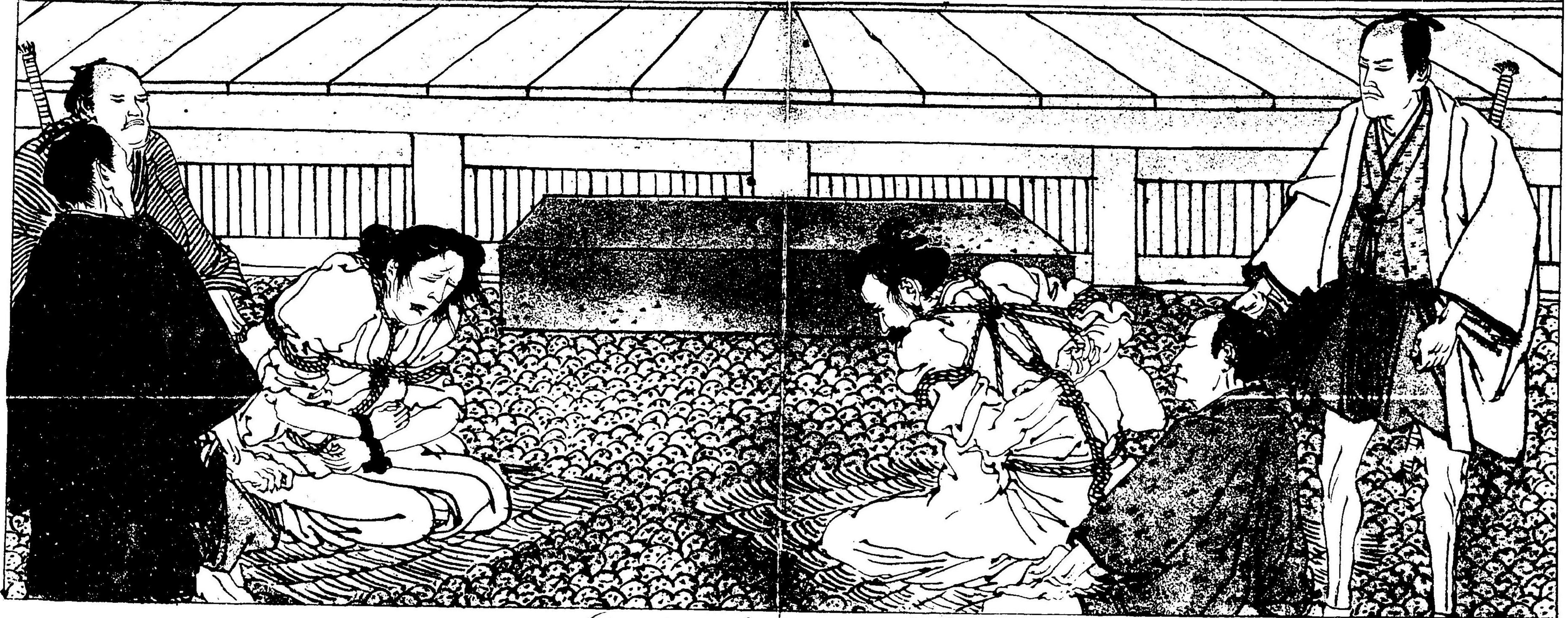
牢獄より本町
 子出て金吹町を
 経て本町壹丁目
 を過り常盤橋
 門を入る



Sending out the prisoners from by call of the Superintendent office, or the bar.

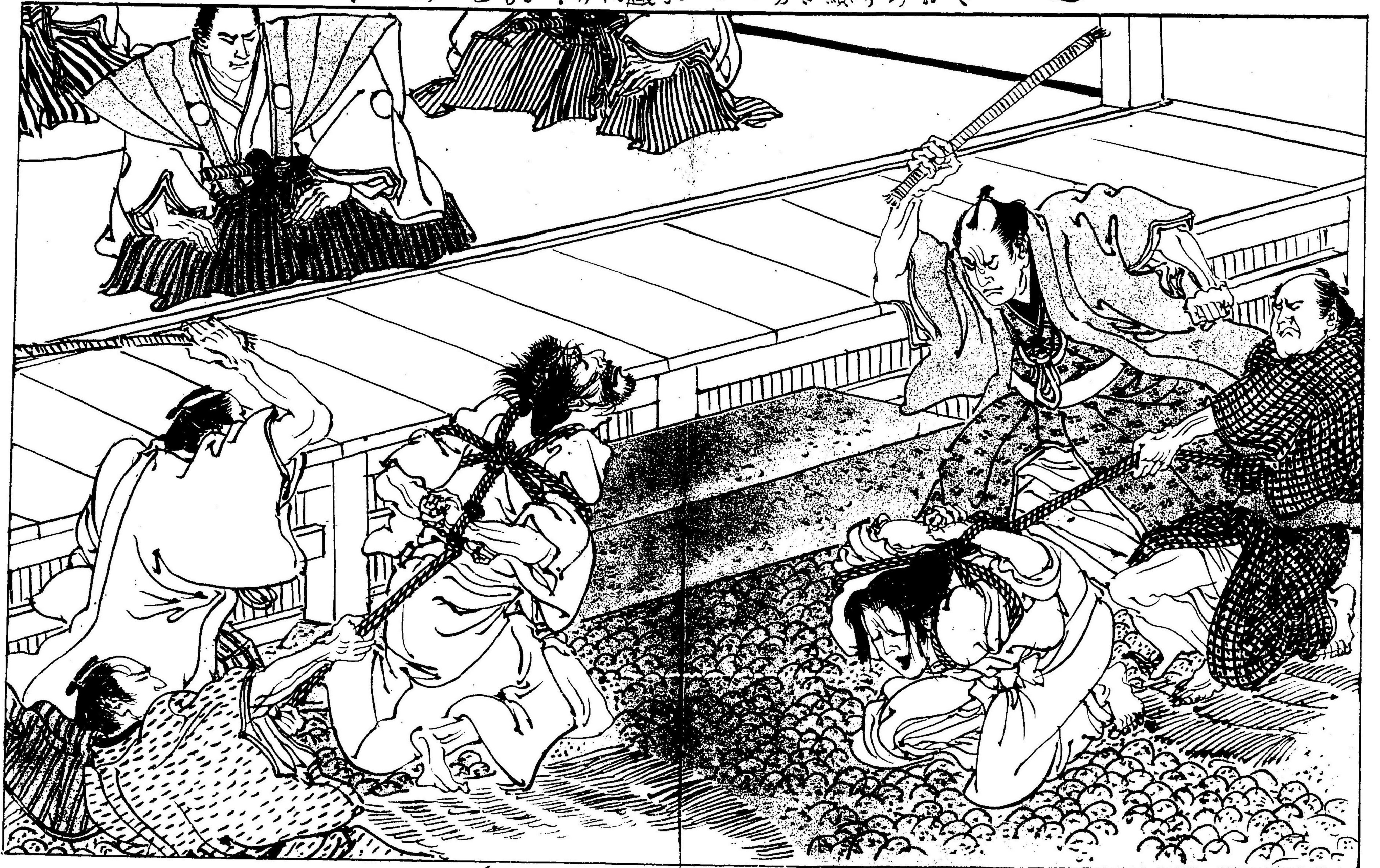
白洲(法庭)北の
 殺所南の番所と
 稱して二ヶ所あり
 北の番所ハ兵隊
 楯以内南の番所
 ハ教習屋橋内の
 内子ありしなり
 白洲子青鬼赤鬼
 と稱し西側子立て
 堀へ居る者あり
 ち四人を拷問せ
 後なり

白洲北



Superintendent office, the bar.

拷問之圖
 拷問となすに
 逆の上より引お
 ろし手錠をさ
 して後手縛り
 圖の如く之を打續
 けさす 囚人動さ
 轉ひてさへ下男
 後手其繩を以て
 引起し更さ之を
 打つなり
 罪人を縛る所の字
 繩ハ太一才尺分廻
 リ程長ハ四尋半
 程ナリ 又四合打
 つ者も第尾と云
 ふ割れ竹二本を合
 せて麻の草を包
 み其上を捻紙ま
 て捲き挿す所ハ白
 草まで包む長ハ二
 尺五寸程太ハ三寸
 廻り程なり



Examination by torture to extort confession.
 For seating a criminal, about 6 inches in length, which was split by knives, united together, rolled up with a hemp and there a cord paper twisted a string was one of use.

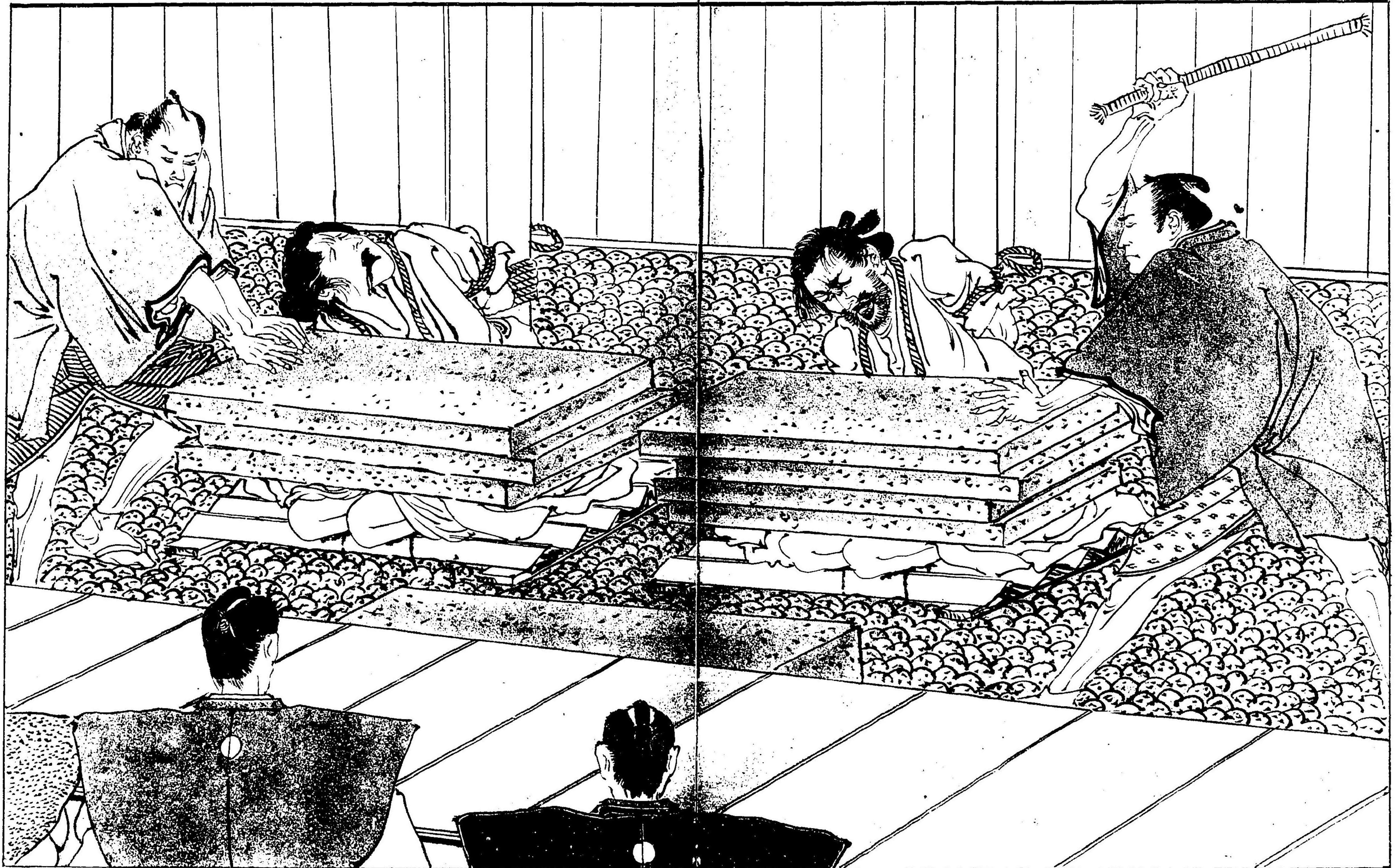
拷問之圖
 (い) 青細引増繩
 (ろ) 布を捲きた
 (は) 鐵の扣鎖
 上下に鳴る
 囚人を引揚げて
 と、其足指地面
 三寸六分程
 離す



Examination by torture to extort confession.

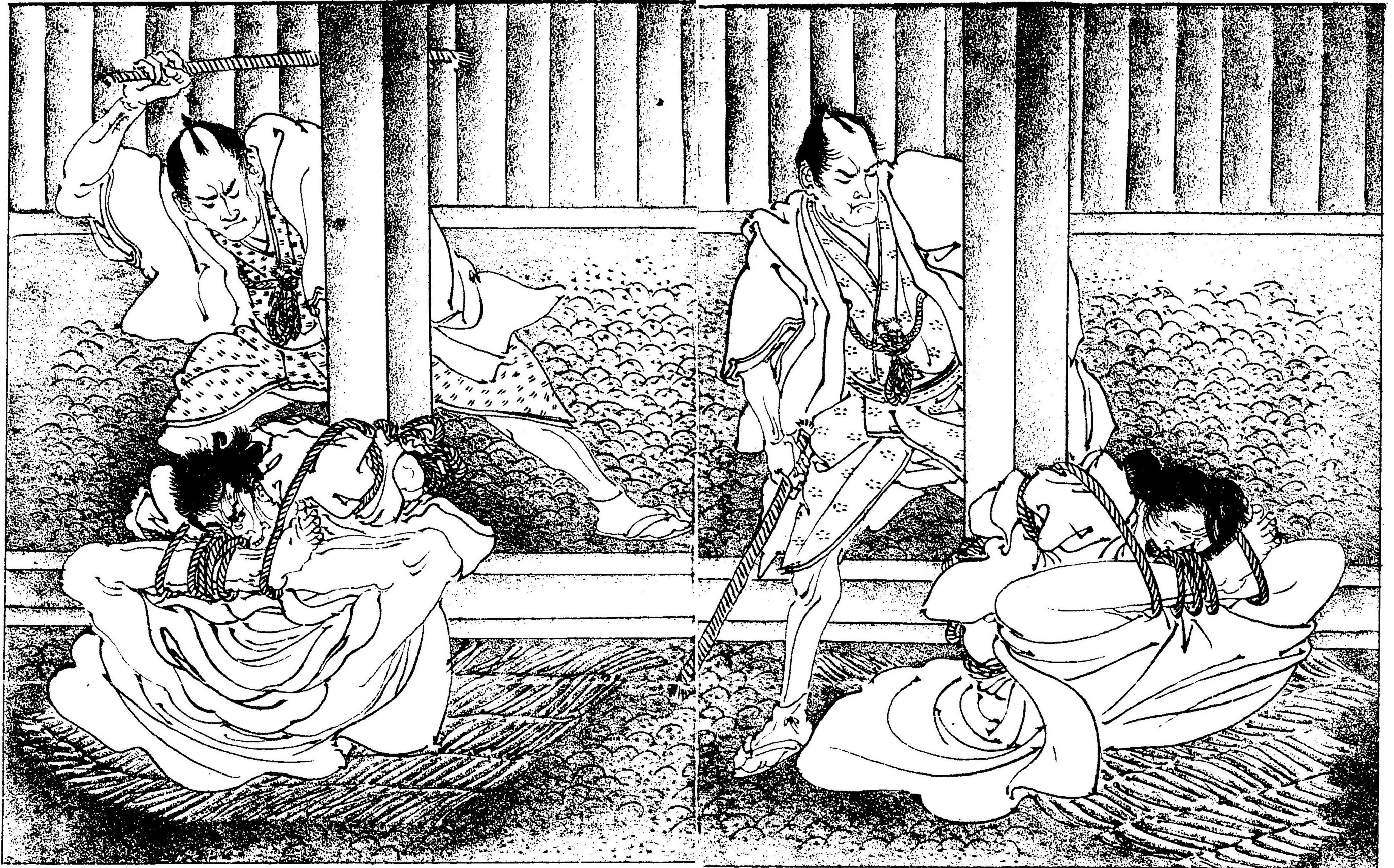
拷問此
圖

此拷問をいふは、
盤石といふは、
伊豆石を以て、
れを作る石、
尺が壹尺、
寸三寸あり、
一個は付拾三貫、
即ち五枚を
積み重ね、
極度とを
足の下敷か、
一者ハ松の真木を
三角となし、
を僅に削り、
を並べ、
打ち付けたる者な
り、
此拷問中、
りてハ、
は積み上げた石
を動かす、
打ち掛へ、
も苦痛を増
し、



Punishment by torture to extort confession.
A sea stone was weighted over a hundred pounds. Piling up into the life stones on the legal criminal was at the highest
degree of torture. A seat of criminal was made with a row of the five pieces of wood, which was triangular at its upper part.

拷問此
 此拷問を海老
 船に用ひて
 此の圖の如く
 細引にて縛
 置く或は之を
 打つことあり



Examination by tort. - extort- Confession.
 This was called a shimo's or box torture from forming the bodies of criminals as binding. Sometimes the criminals should be beaten, while they were oppressed.

囚徒持ち運
びの圖
囚徒白洲に於て拷
問し罷り其身体比
動き得ざると云
を牢内へ送し又
牢内の囚徒病を罹
りて當時に設け
し浅草川の病
牢に送ると云ふ圖
の如く囚徒を貫
載せ竹にて荷を運
びしなり其病を
を溜ると云ふ荷人
途まで休まんを
と云ふ其囚徒も
さうなり其病を
猶も溜ると云ふ
を板ふと同じと
云ふ



Carrying the prisoners, chained, or torched by torture



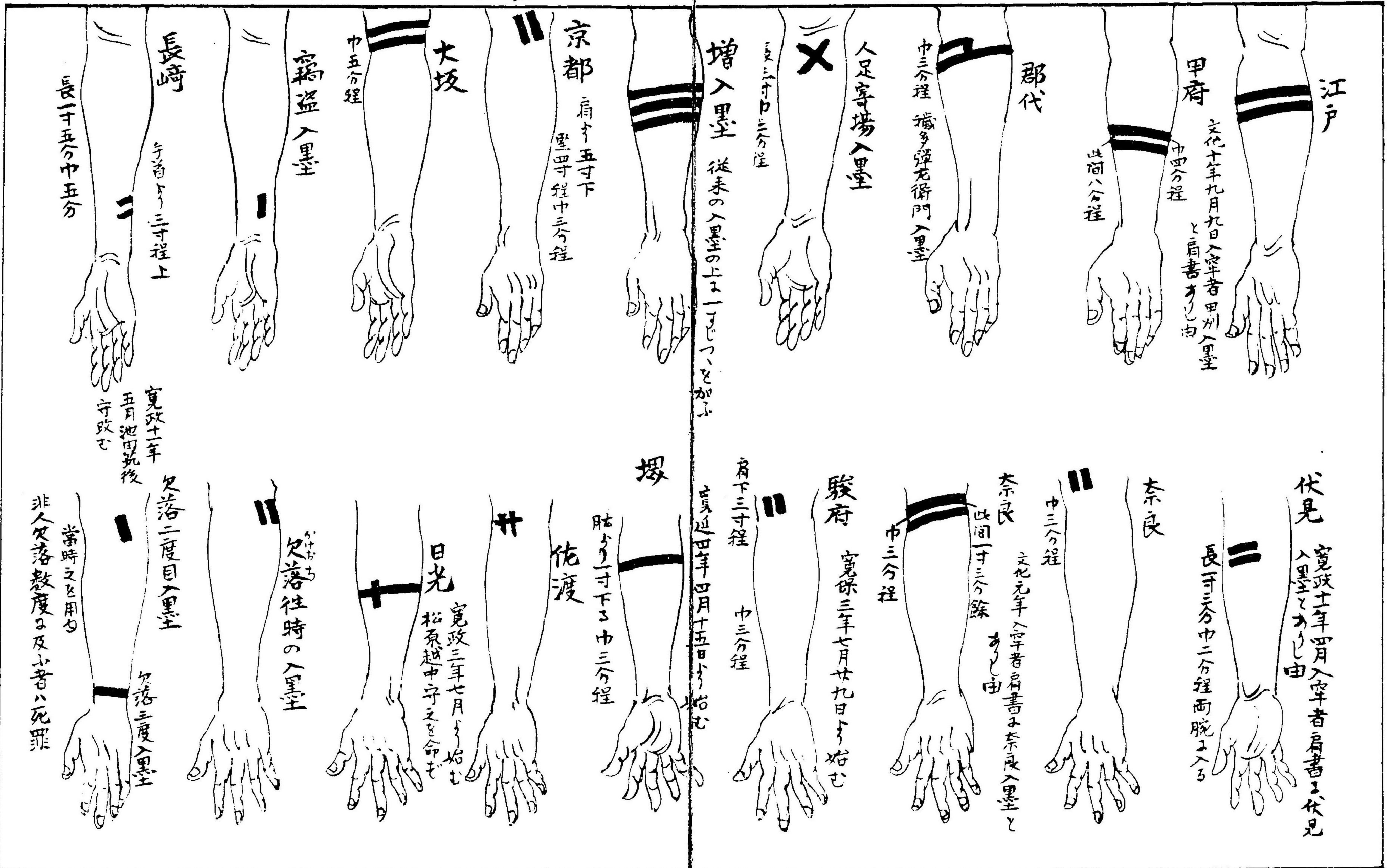
The punishment of branding by marks tattooed in the skin of one with ink.
 It was noticed by this mark that the man was once criminal, and when he was seized again, a severe punishment should be executed on him.

入墨之



江戸入墨ハ古く保
五年二月十七日之
を始り同年五月十
一日より之を行ふ中
山出雲守掛りま
長崎町平兵衛と云
へる者江戸橋の枕
を巻きし鉄物を盗
み始めて之を處せ
江戸女入墨ハ寛政
五年十一月小日向西

吉母衛府ハ五
郎母つたと云へる
者湯釜に於て衣類
を盗み入墨の上入
獄となりし始り
人足寄場入墨ハ寛
政七年八月より始む
赤井越前守勤役中
より腕に入
増入墨ハ安永七年
始りて之を行ふ松
平右京大夫之を命
し板野大隅守掛り
て小金無宿權三
郎始りて之を處せ
らる



江戸

甲府

郡代

人足寄場入墨

増入墨

京都

大坂

長崎

伏見

奈良

駿府

坂

日光

佐渡

欠落往時の入墨

欠落二度目入墨

欠落三度入墨

文化十年九月九日入墨者甲州入墨
と肩書あり由
中四分程

此間八分程

中三分程 播磨守衛門入墨

此間三分程

肩より五寸下
墨四寸程中三分程

中五分程

竊盗入墨

手首より三寸程上

長一十五分中五分

寛政十年
五月池田筑後
守政也

貞延四年四月十五日より始む

肩下三寸程

中三分程

寛保三年七月廿九日より始む

中三分程

文化元年入墨者肩書ハ奈良入墨と
あり由
此間一寸三分程

中三分程

長一三分中二分程腕入る

寛政十年四月入墨者肩書ハ伏見
入墨とありし由

當時之に用ひ

欠落三度入墨

寛政三年七月より始む
松原越中守之を命ず

+

卍

肘より一寸下中三分程

欠落

||

非人欠落教度及小者ハ死罪

The several kinds of marks tattooed in the skin of arm with ink.

遠嶋出船北圖
 遠嶋八圖の如
 き船まで後人三
 人附添ひ法螺
 貝を吹きて出船
 の合圖となし大船
 を繋ぎて嶋を送
 江戸より流罪の者
 は永代橋より發し
 大島八丈嶋三宅
 嶋新島神津島
 利嶋御藏嶋
 右七嶋の内へ送
 又江戸より仇渡
 送ることあり
 京大坂西國中國
 より流罪の者ハ
 薩摩五島内
 隱岐壹岐天草
 郡
 右へ送る



Transportation or banishment to a penal island.

日本橋晒の圖
 晒し場所奥行六
 間口七間番小屋
 五間屋根菰茅
 間
 囚人を青繩三本
 纏みおけ持ち籠
 りて牢屋敷をり
 場へ引連れ本
 繩の傍小子を免
 し藁の上をせし
 む晒し日限り大
 坪三日間なり



The punishment of exposing the criminals to public view.
 The priests who were breaking the commandments of Buddha mainly executed to.

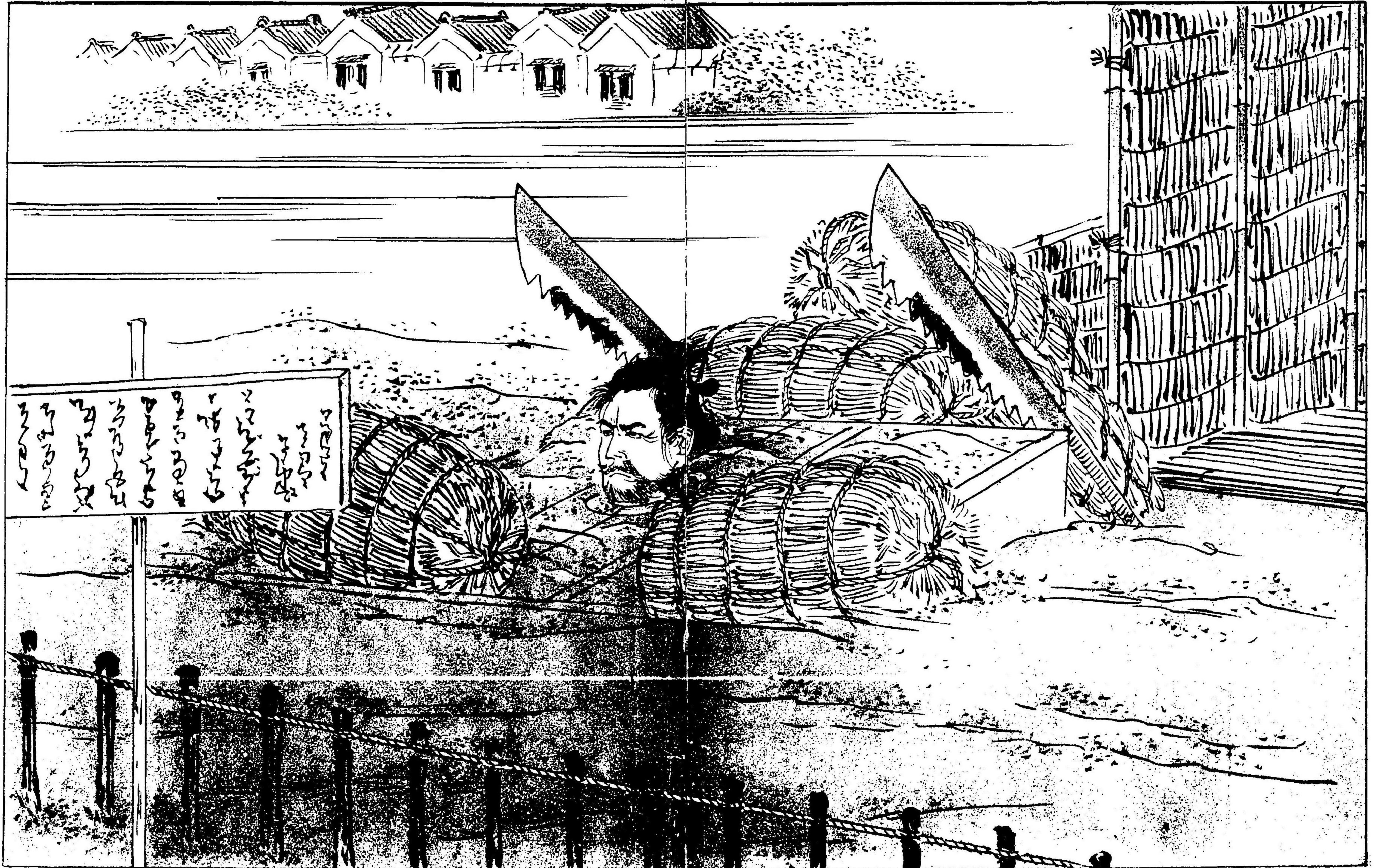
敲仕置之圖
 高仕置公事係五
 十年四月十日戸田
 城守始めて之を行
 ひ延三年酉年三月
 十日馬場讀守
 之を行ひし後一旦
 之を廢せしむ
 延三年酉年三月
 十日馬場讀守
 世肥後守與之
 始め永く後代を傳
 へたる者なり



Flogging, as a punishment.
 A criminal was beaten from 50 to 100 in Mus. about the entrance gate of gash, exposed to the public.

鋸引仕 置七圖

此は置六圖の如く囚人を箱の内
 に入れしめて首の
 木を出しめ其箱を
 土中に埋め其囚人
 の首筋を突き切
 り血を取て竹筒に
 ぬり斯くして三日
 間之を晒し乾し
 此囚人の首を引
 かんとも者あれば
 之を許さず
 四一の上礫刑を行
 ふなり
 竹筒長さ二尺四寸柄
 一尺六寸但し大竹に
 割長柄とも三尺
 柄に紐を縫く
 晒箱板松三尺四方
 深さ二尺五寸箱前
 の方が平地に掘
 埋め後の方が平地
 より六七寸上ヤ箱
 の上まで土を摺り
 付す



Punishment of sewing the neck of a criminal exposed to the public. A criminal was put in a wicker basket in the ground. The blood taken from the skin of his neck with a knife was daubed on the bamboo bars, with which some was admitted to saw. After five years' exposure for that offence he should be put to death in Siam.

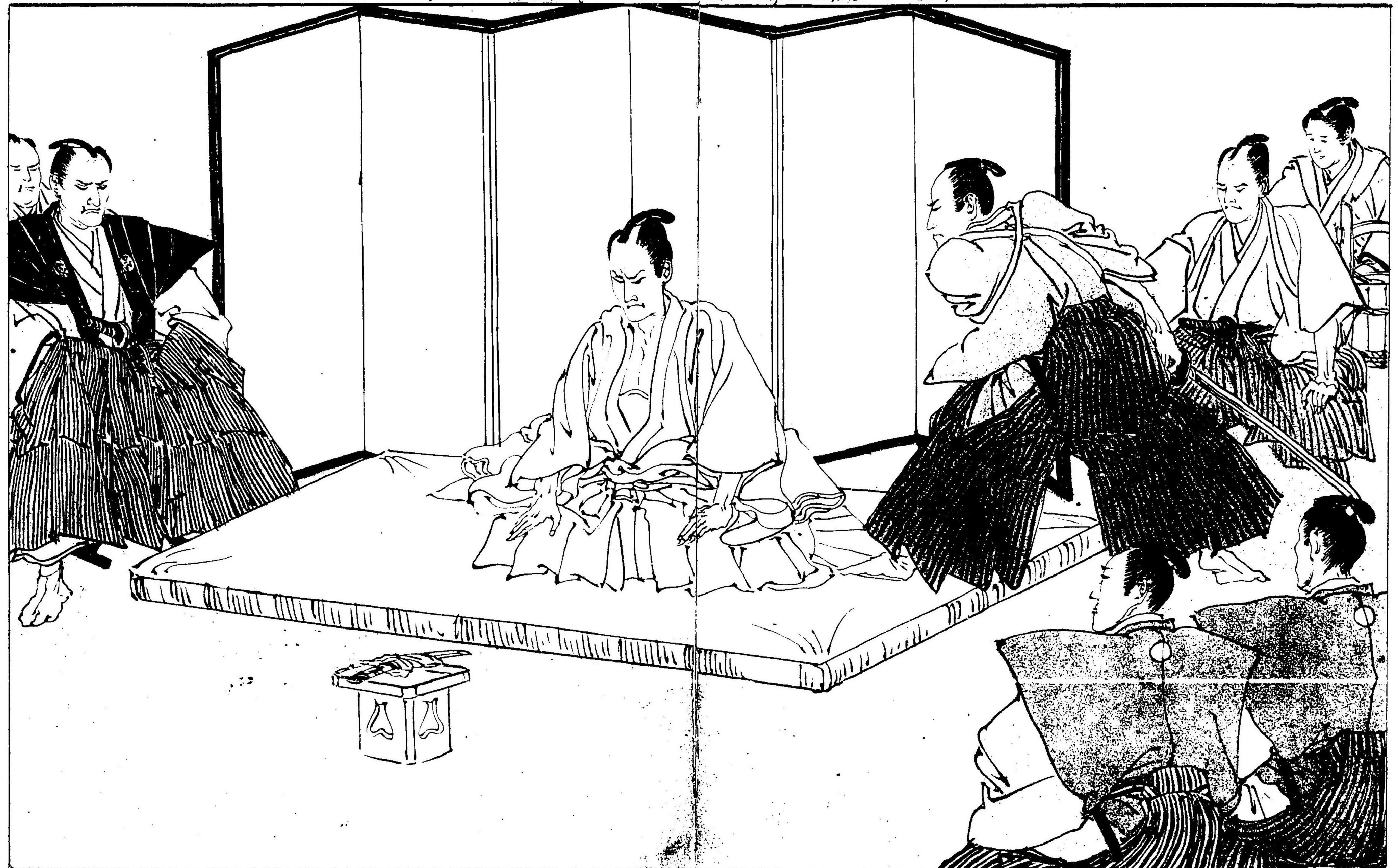
斬罪取片附此圖



Putting away after finishing the capital punishment.

切腹比
圖

上官の士切腹を命ぜられしときハ檢使役人等其家より執之を行かしむし其時上官の士ハ傳馬町内於て之を行ふ此時其前庭を四圍に堀敷敷き評定所より出でて切腹申付前上下の侍が其能く乘傳馬町表門に入りて大牢の庭より置置の土籠を出し切腹場を築き板敷の敷を以て生と成り一ハ切腹可い事其當人對して自分の姓名を告げり私の上切腹ハ當人の後廻り刀を後てけし其後切腹人向ふて侍傳馬町をとり脚を脱せ後より合圍の吏と其も半屋間ハ三ツカマ九十五分(四木刀も終つてけし或ハ兵刀ノ木刀と載せ高合撲かむ後かきこもり)と持出し三尺餘を距て前より三ツカマを敷くハしと下知し流い之を取つ人として十分ノ利と處がして侍向とはことし道々刀を擧げて其前を討つ



Quiside. by cutting open the abdomen as a punishment, only inflicted on samurai, or all fi
by privileged to wear two swords.

引廻しの

圖

櫓 西の内三拾六
 枚を結して之を作
 る堅九枚横四枚十
 二合せて四十枚
 拾北 檣
 長六尺中一尺三寸厚
 八分北串長九尺
 二寸解
 引廻し行列
 元捕非五人櫓持
 子代共非三人櫓
 北持子代共非三人
 鎗持二本子代共四
 人捕道具二本持四
 人四人降添非四人
 室領二人室領小
 屋頭非二人
 四人馬の上も堪へが
 了者八一のワシも縛
 ちヤヨククと云ふ
 木の丸太五寸四り
 横二尺二寸堅木四
 尺五寸



Leading the prisoners to an execution ground, Kotsukahara or Judogamon.

獄門之圖

獄門基ニツマニ
 三人の首を晒せ
 してありしが文化
 三年四月、東京
 三人の獄門あ
 りしと云ハ其基
 をニツマと云とし
 と云ハ其後ハ大
 抵此例ニ倣ひし
 由人数の多少ニ
 依りて亦之ヲ變せ
 しことあり
 獄門日数三百二
 夜ニ番人各の者
 六人下番人非人三
 引廻しなる者ハ
 櫛ナシ
 獄門基一人掛サハ
 板長キ四尺厚三
 寸巾八寸木呂梅足
 四寸角長キ三間一本
 高六尺内二尺五寸
 程根入カフハ長キ
 六寸巾二寸柱一本ハ
 五挺宛合セテ十挺
 二人掛リ長キ六尺
 三人掛リ板長キ八
 尺



The gallfold on which the heads of criminals were exposed to the public.

火刑之圖

引回りの囚人場
 所をまはりしとてハ
 非人六人まで馬よ
 りおろし圖の如く
 設けし杭に縛り
 て茅薪を積み三
 三把の茅を手に持
 ちて之を火を移し
 上へ積みし茅の移
 揺は火を掛す所の
 火を移ししとて四
 方より火を移し囚
 人の死せしを見計
 りて其燃焼し物を
 積み変へ四五把の
 茅を持ちて火を移
 し左右より進みて
 一人八草一人は積
 を焼く又廿八西乳
 をやく所なりとめ
 大刑の縛り繩ハ總
 て土を塗る熱切を
 焼く所なり



Punishment by burning at the stake.

火刑に附する取片の圖



Putting away after finishing the previous punishment.

磔刑之圖

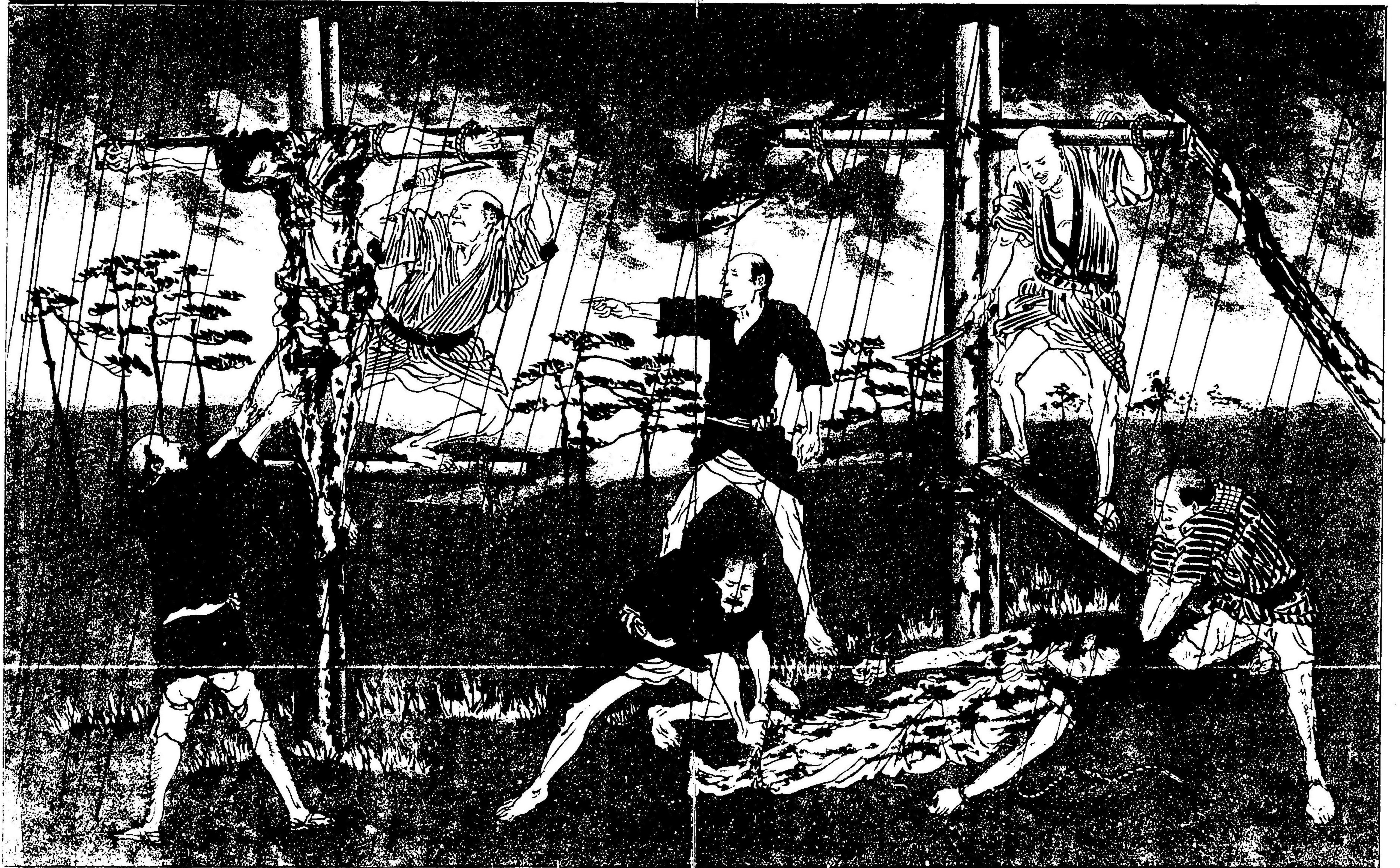
囚人引廻しの上場
 非人六人馬
 向うよ乗せて圖
 の如く縛り左右
 の脇の下に腰の
 ころも下其衣服を
 切及して之を胸腹
 の處に穿てニニテ
 所縛りて結び手傳
 人は十人餘り共
 磔其土を起し三尺餘
 土中埋めて之を建
 其用は人の整ふに
 以下勸非人翁を
 以て左右より四人の
 眼をさへ左右に翁
 心を突出してかケ
 りて之を合せてアリヤ
 かくして之を掛けて其
 翁を引くや一方より
 突き掛けて胸腹より
 前を突き後を突き
 先三尺餘と突出せ
 や一捲りして之を後
 くとこ又直一方より
 突き入れ斯くして
 交るく左右より之
 を突き其翁を
 二十本より三十本
 至る終に咽喉と突
 き翁めを刺す



Punishment by crucifixion and spearing

磔刑
 片取
 附比
 圖

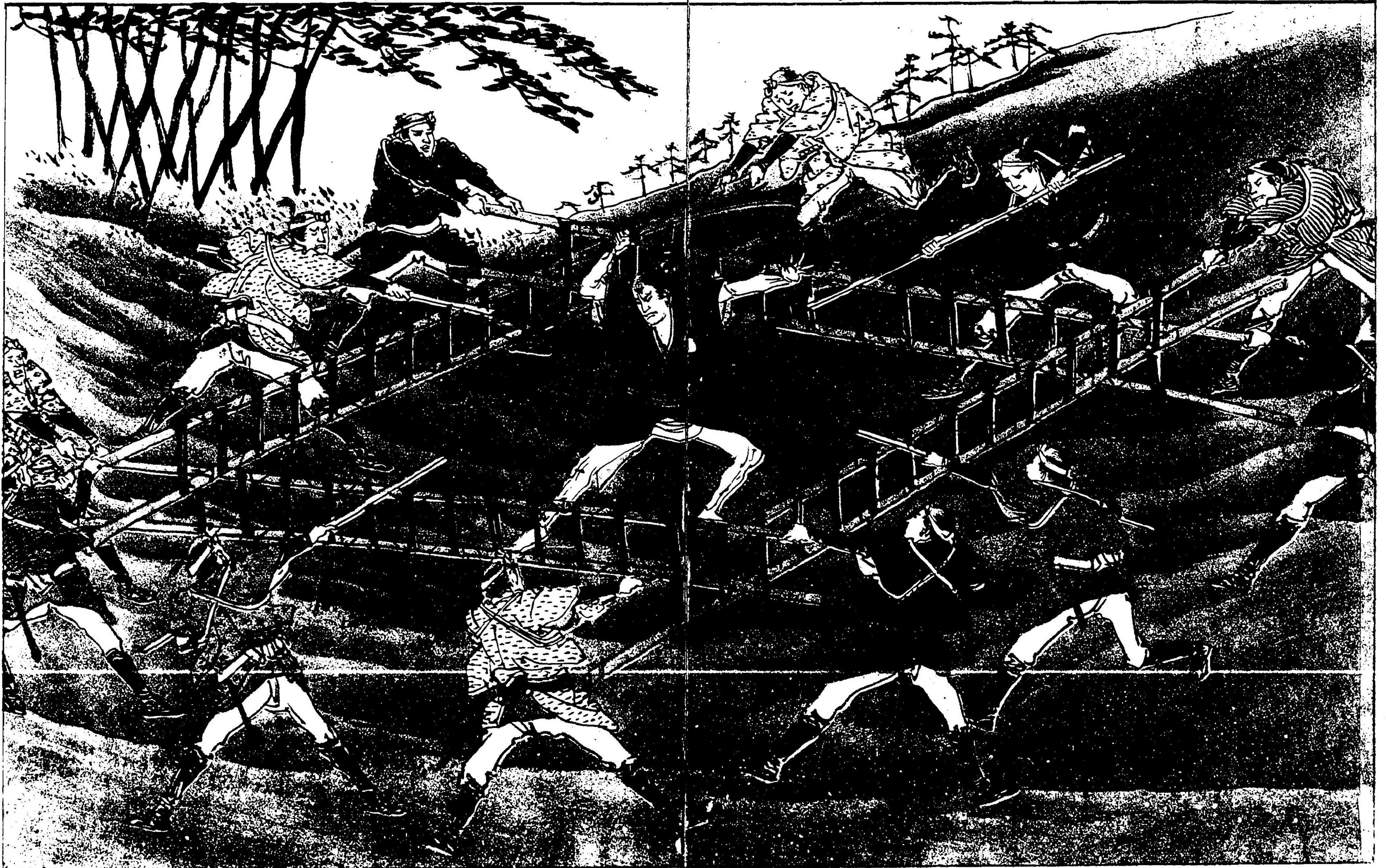
磔刑を行つた後
 三日間其体は
 晒し置かれ
 の如く其磔刑柱
 リ切て落し穴に
 込み土を蓋ふ



Taking away for third day after finishing the punishment by crucifixion and spearing.

捕縛の圖

罪人武術に達し
 容易に召捕り難
 さいと云ハ捕縛を
 以て之を圍み其
 外圍より捕道具
 を以て攻め附け
 以て之を捕ふ
 たり其捕縛の組
 み方ハ圖の如く四
 捕の捕縛を標
 提ハ持ちて五二
 方を止し一方を
 下し若し罪人の
 飛越へんとモ
 手ハ直上取上
 げて之を妨げ其
 字の如く海して
 外圍を締め一ハ
 近を以て身と扶
 み一ハ捕道具を以
 て突き倒し或ハ
 打ち倒して之を
 捕縛する事也



Arresting a Criminal.
 If a Criminal was brave and mighty, so that he could be arrested by common men, the policemen would inclose him with the ladders, while they were fighting again st him

舊江戸品川鈴森刑場の圖

品川鈴森は徳川氏開府の時刑場と充てし所なり茲に小塚系やく窪死刑死の屍を埋葬せむ
鈴森は塚原の西刑場は南無妙法蓮華經の碑あり昔し日蓮上人鎌倉より刑死せられんとせりや圖にその其刀折れぬの上人の助死せしと云へる縁故も甚き罪人の助命を祈望するの意ありと云ふ



Execution ground of S. mori at Shinogawa.

維新明治之圖

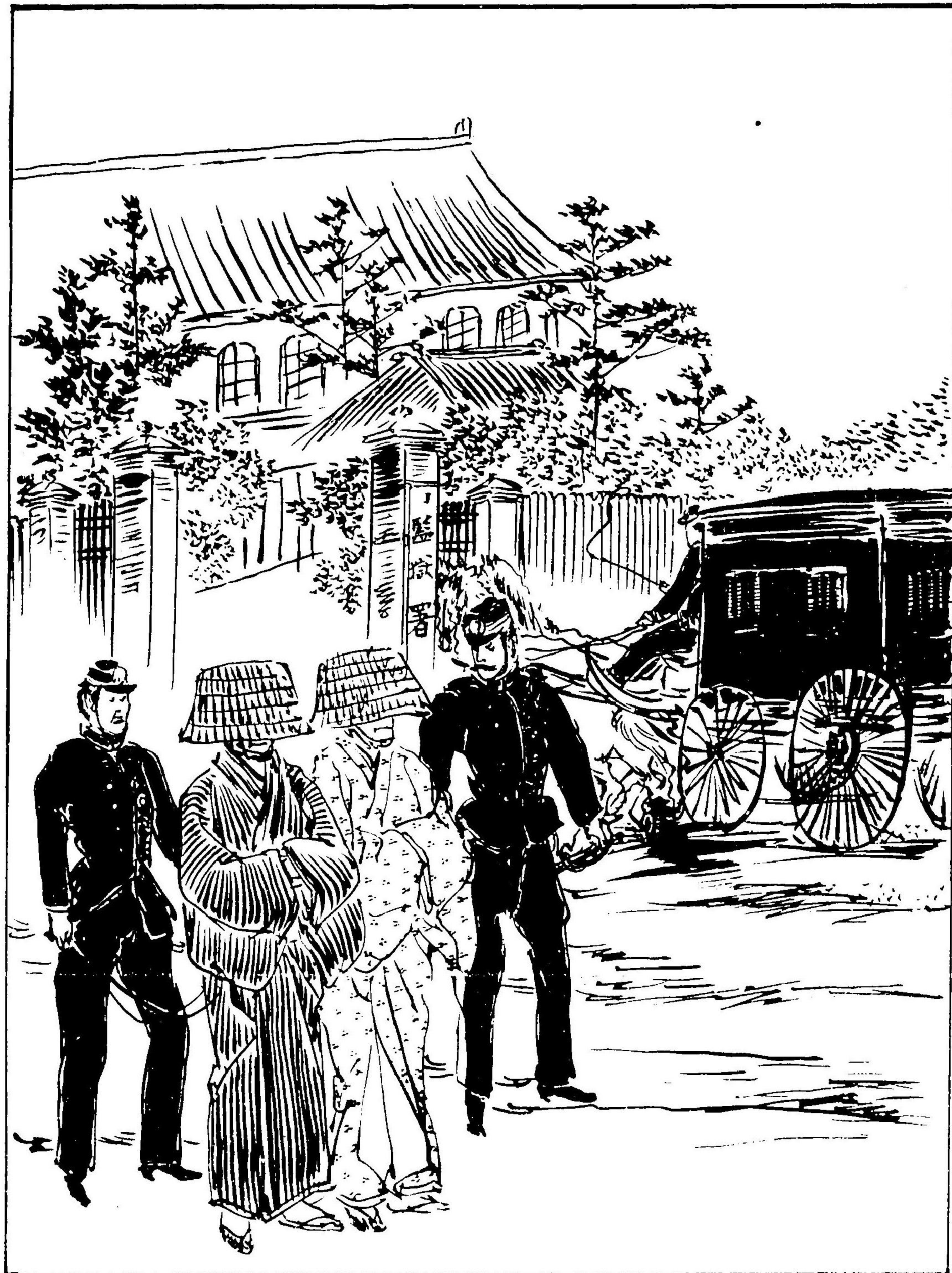
德幕刑罰
川府事譜
圖
芬錄

56



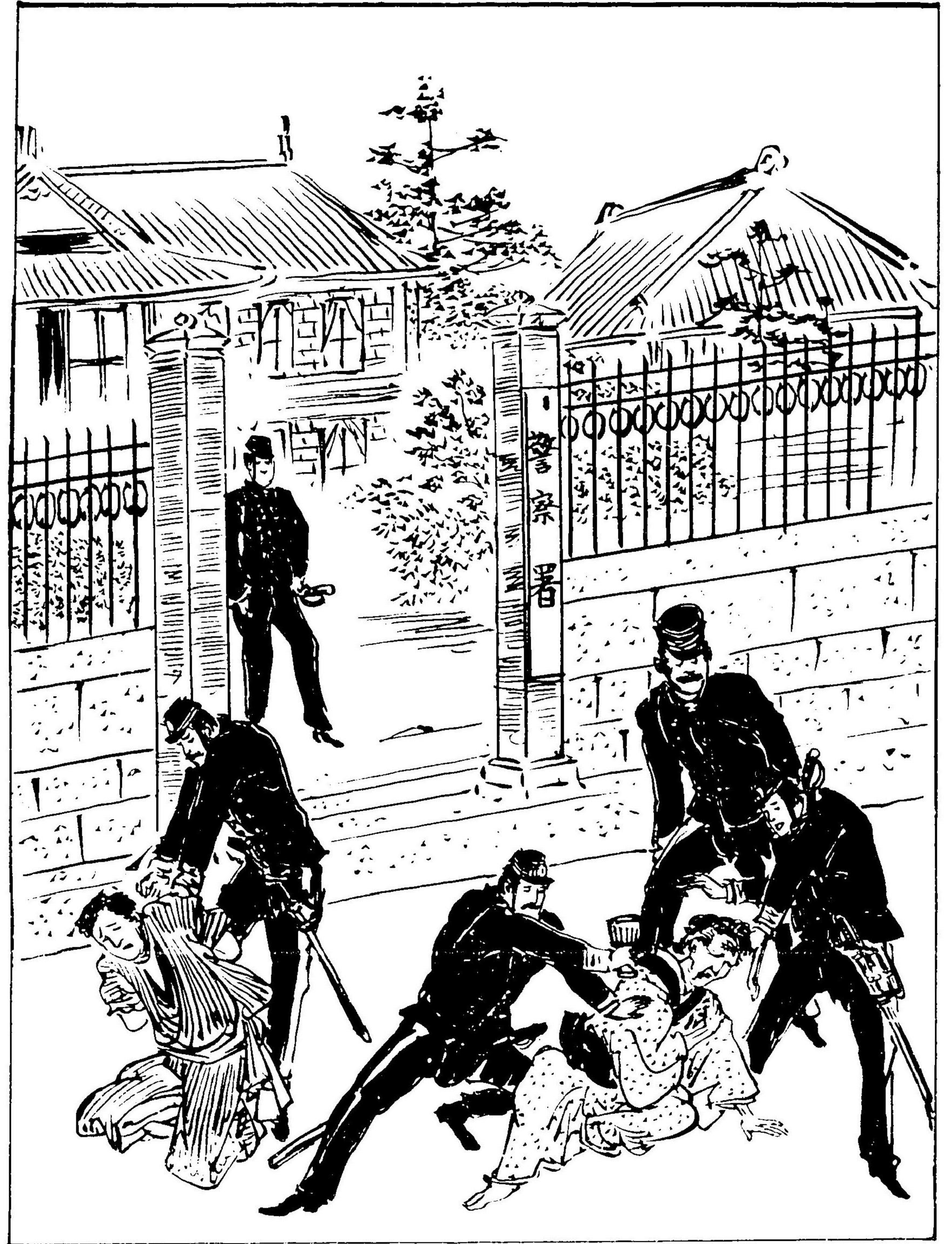
The view of Japan after a revolution in 1867.

現世監獄之圖



Modern police office.

現世市内警察署之圖



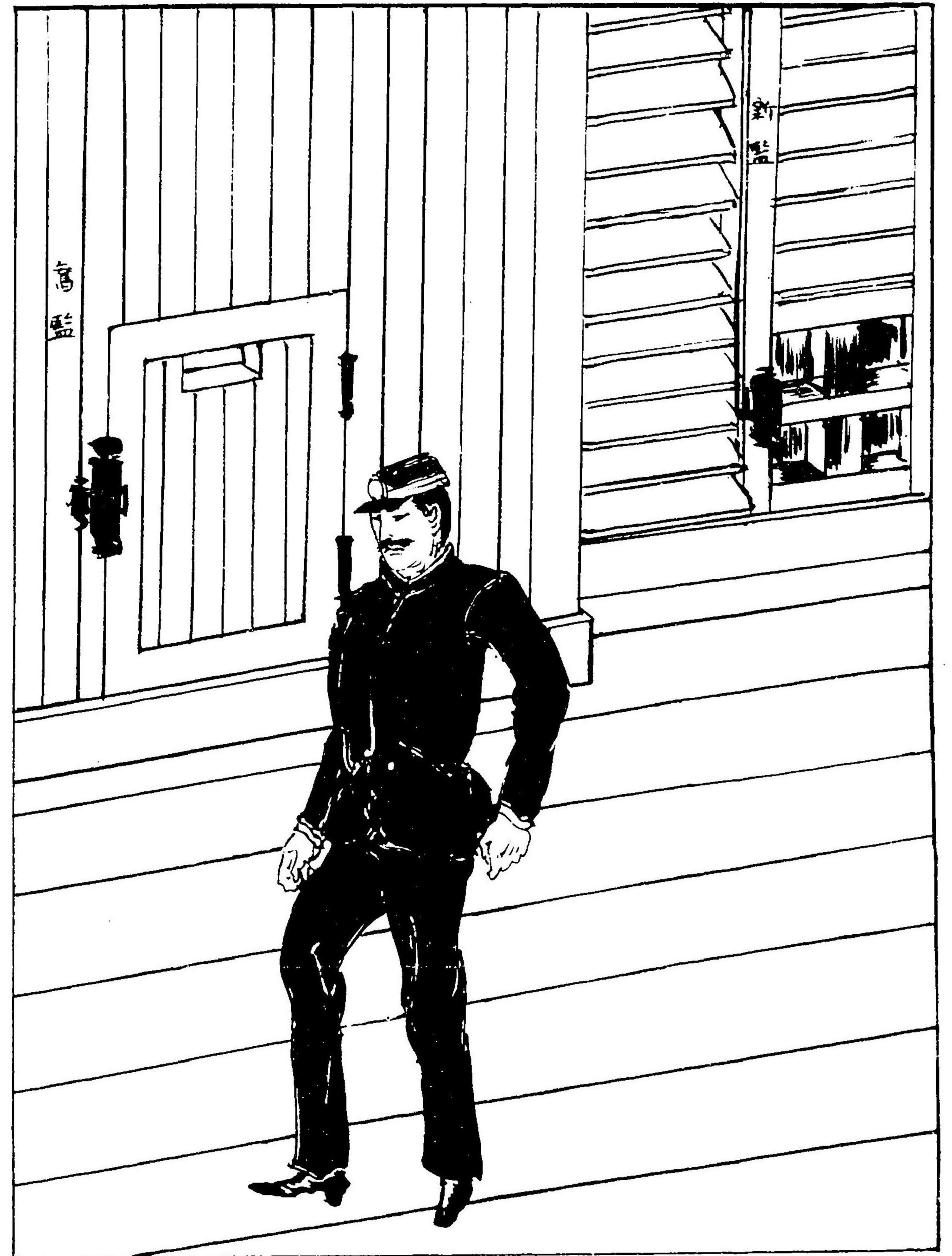
Modern prison.

圖之庭法所判裁在現



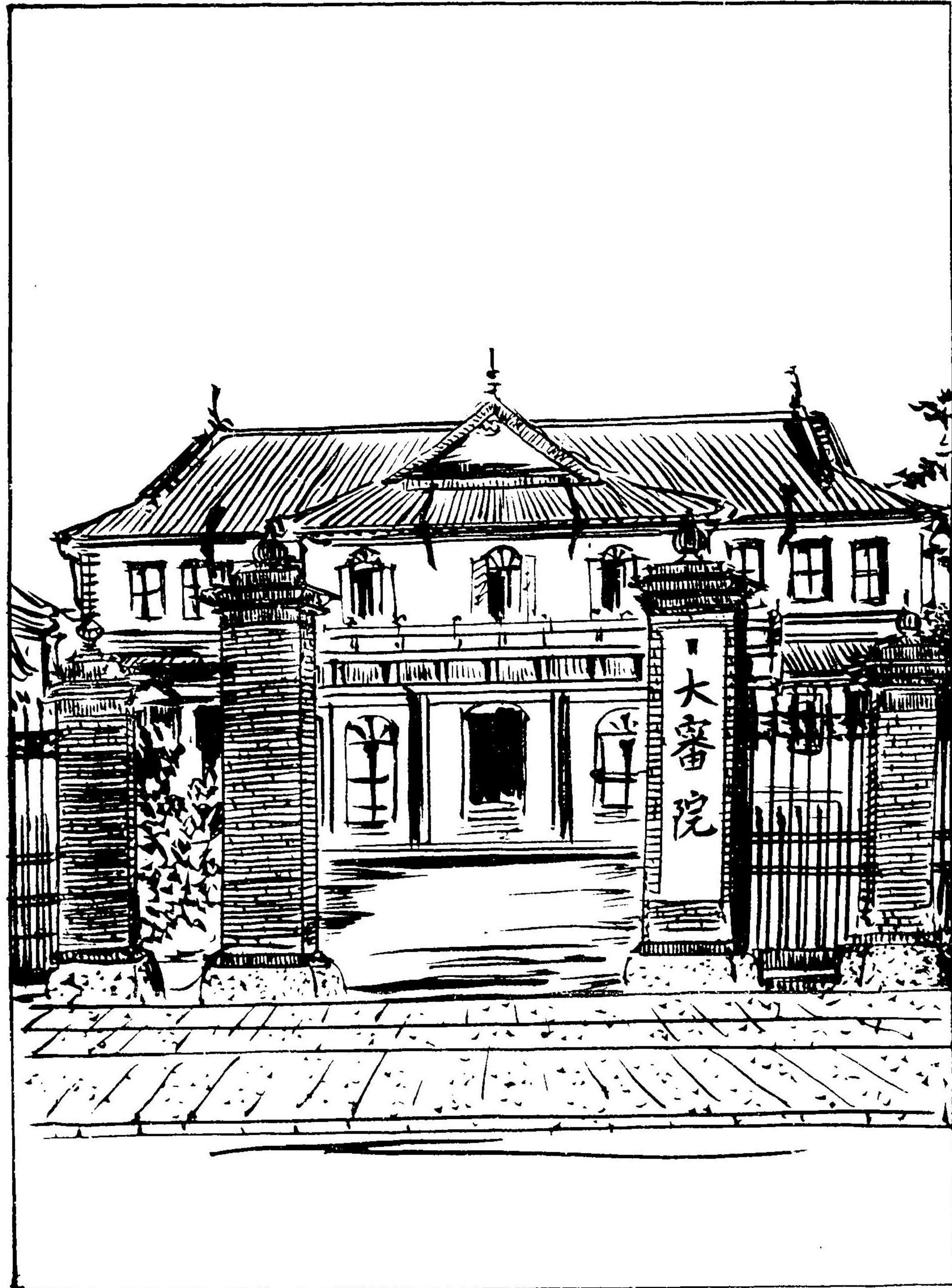
Modern court of justice

圖之獄監在現



Modern prison.

現世大審院之圖



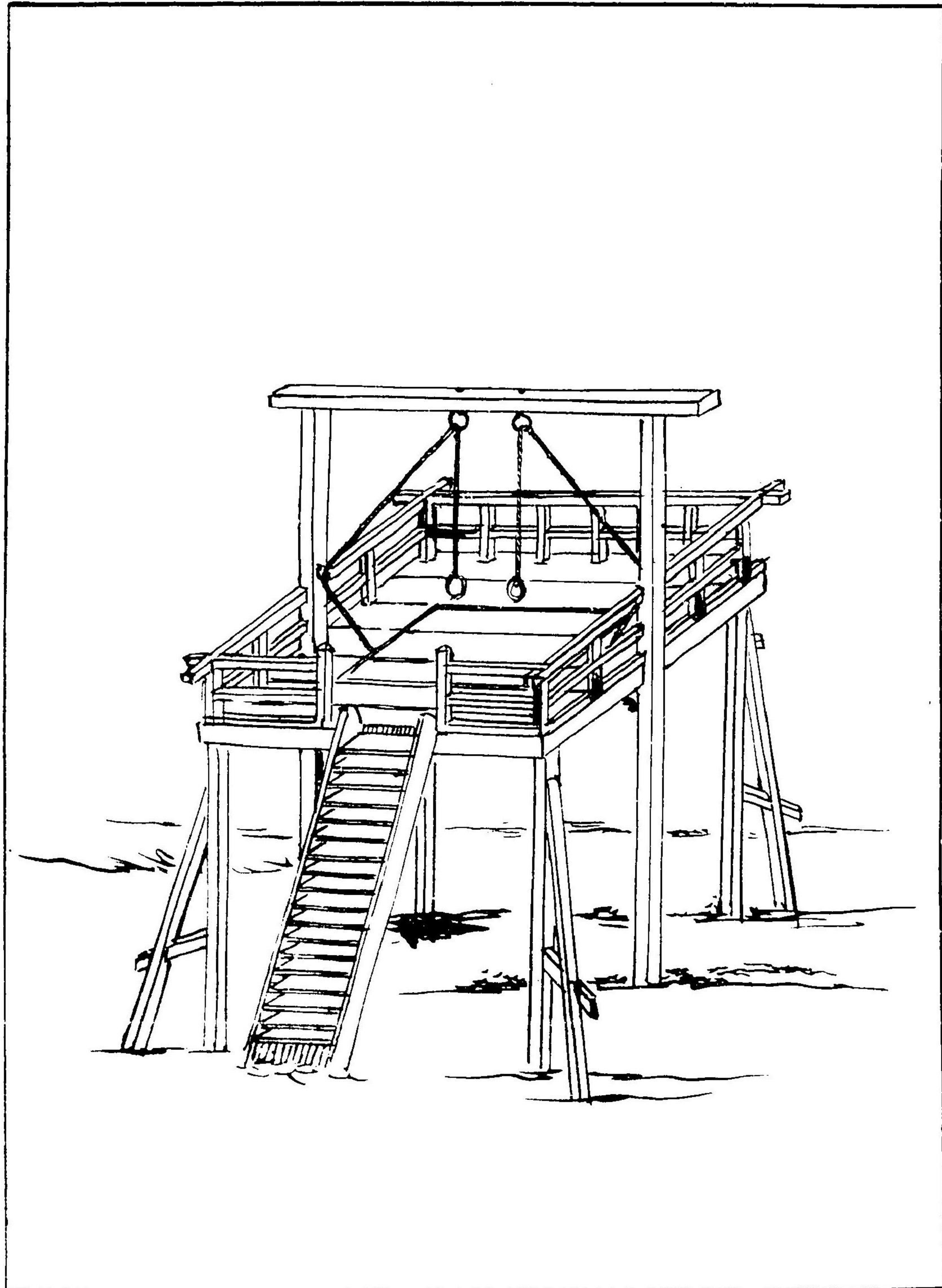
Modern supreme court.

現世控訴院之圖



Modern court of appeal.

現代死刑絞臺之圖



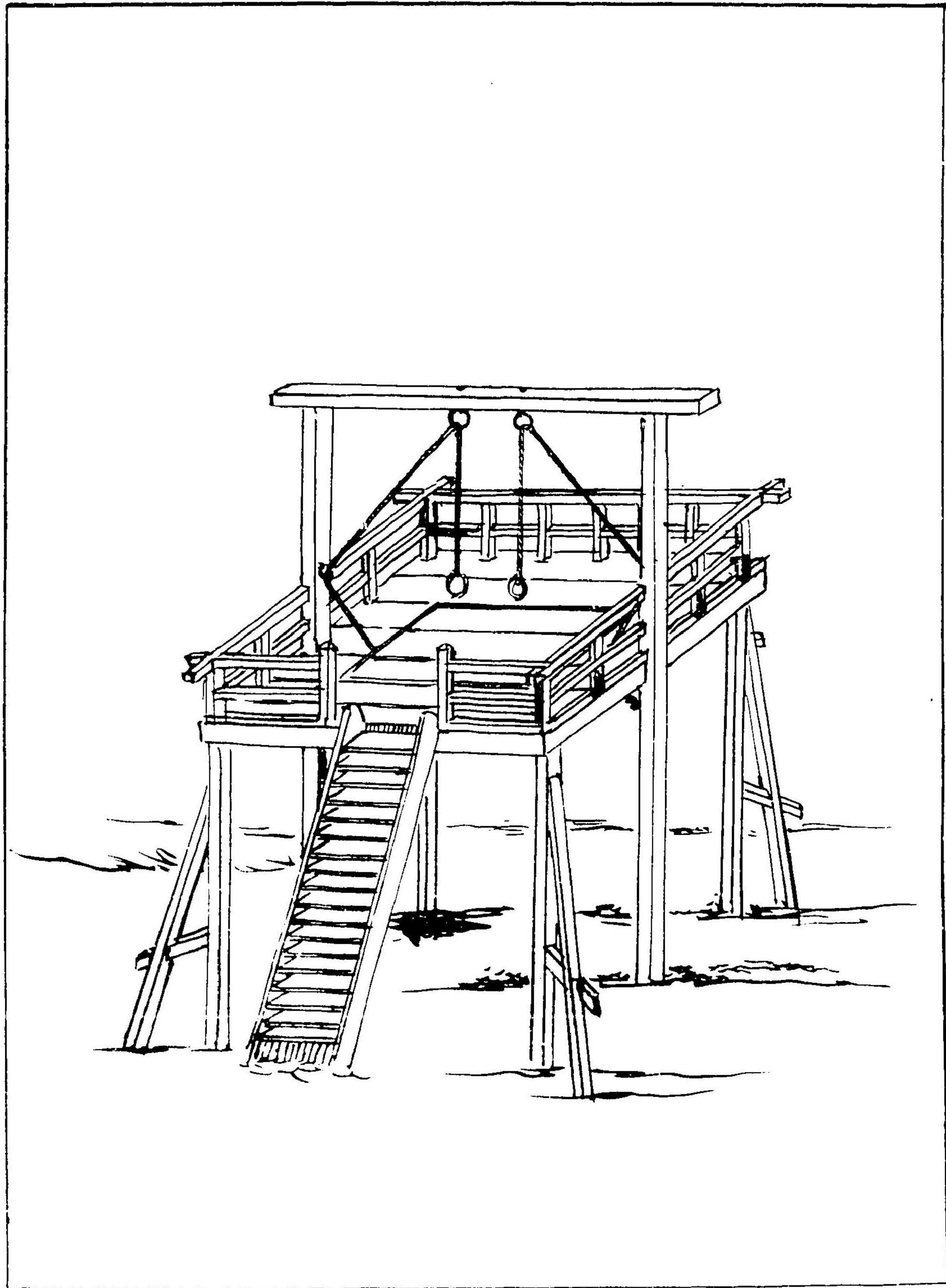
Modern hanging stand.

現代懲役場之圖



Modern convict.

現代死刑絞臺之圖



Modern hanging stand.

現代懲役場之圖



Modern convict.

明治廿六年九月十四日印刷
明治廿六年九月十七日發行

定價金壹圓七十錢

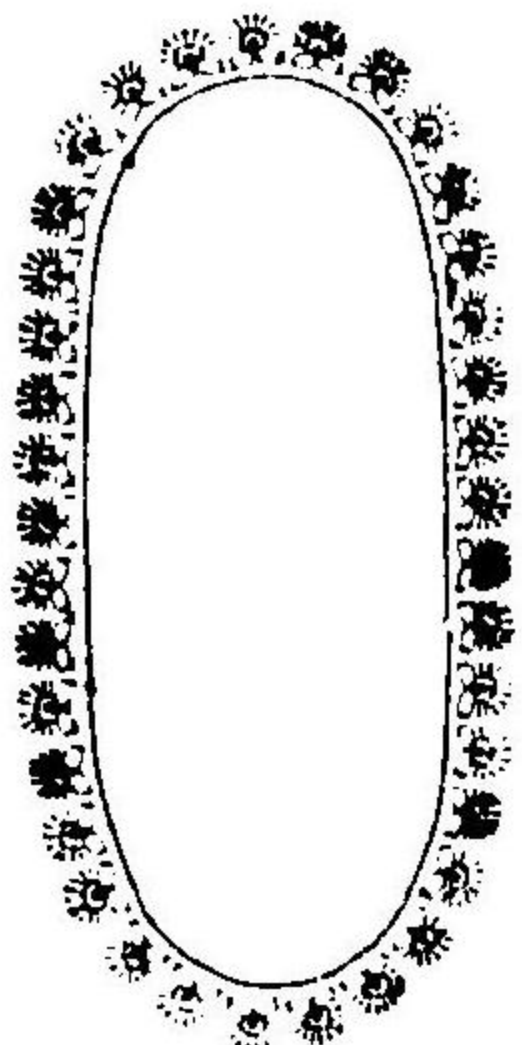
東京市芝區新櫻田町十九番地

編畫
輯工
人兼

藤田新太郎

東京市神田區錦町三丁目廿四番地

印刷人 太田義二



東京市京橋區南紺屋町七番地

發行所 神戶直吉

16

183

